

【制定 平成 22 年 1 月 27 日】
【改正 平成 29 年 4 月 1 日】
【改訂 平成 30 年 4 月 1 日】
【改訂 平成 31 年 4 月 1 日】
【改訂 令和 2 年 4 月 1 日】

三つのポリシー

(聖徳大学大学院・聖徳大学・聖徳大学短期大学部)

- 1.学 位 授 与 の 方 針 (ディプロマ・ポリシー)
- 2.教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)
- 3.入 学 者 受 入 れ の 方 針 (アドミッション・ポリシー)

聖 徳 大 学 大 学 院
聖 徳 大 学
聖 徳 大 学 短 期 大 学 部

聖徳大学大学院・聖徳大学・聖徳大学短期大学部

三つのポリシー 目次

聖徳大学大学院

聖徳大学大学院 前期課程	1
聖徳大学大学院 後期課程	3
児童学研究科 博士前期課程	5
児童学研究科 博士後期課程	7
臨床心理学研究科 博士前期課程	9
臨床心理学研究科 博士後期課程	11
言語文化研究科 博士前期課程	13
言語文化研究科 博士後期課程	15
人間栄養学研究科 博士前期課程	17
人間栄養学研究科 博士後期課程	19
看護学研究科 看護学専攻	21
音楽文化研究科 博士前期課程 音楽表現専攻	23
音楽文化研究科 博士前期課程 音楽教育専攻	25
音楽文化研究科 博士後期課程 音楽専攻	27
教職研究科 教職実践専攻	29

聖徳大学

聖徳大学	32
児童学部 児童学科	35
心理・福祉学部 心理学科	38
心理・福祉学部 社会福祉学科	41
文学部 文学科	44
人間栄養学部 人間栄養学科	47
看護学部 看護学科	49
音楽学部 音楽学科	51

聖徳大学短期大学部

聖徳大学短期大学部	53
保育科 第一部・第二部	55
総合文化学科	58

聖徳大学大学院 修士課程・博士前期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

聖徳大学大学院は、1933年に創立された東京聖徳学園の建学の精神である「和」を教育理念としています。本学大学院は、この理念を社会に創造的に活かしながら、多彩な総合かつ学際的な教育・研究体制を構築し、時代に求められるより高度な専門的職業人と研究者の養成を行い、斯界に有意な人材を多数輩出しています。

大学院をとりまく現代社会は、極めて早い速度で進行する個人・社会・自然に関わる価値観の多様化・複雑化にともない、予想もしなかった変化に直面しています。それ故に、文化・社会・自然及びこれらと人間自身との関係についてのこれまでの概念を転換し、人間の尊厳、生命に対する新たな認識と価値を創造する人材の養成が求められています。

聖徳大学大学院修士課程・博士前期課程は、我が国最初となる児童学研究科を中心に6研究科から構成され、如上の現代社会の要請に応える教育・研究体制を整え、高度な実践的な指導力を備える専門家と学術研究を担う研究者の養成を行っています。とくに、児童学研究科では、我が国で最初の設置となる通信制大学院において、すでに教職に就いている人材をはじめ多様な社会人に対して学習の途を開き、修士の学位を多数授与する実績を積んでいます。

聖徳大学大学院修士課程・博士前期課程は、上記の基本認識に基づいて、以下の教育目標を掲げています。

【教育目標】

1. 基礎的な学術研究能力とともに新たな認識と価値を創造できる専門性に優れた研究能力を育成する。
2. 現実社会の問題・課題について具体的な実践の場から要請される高度な専門的解決力を育成する。

こうした教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

【学修成果】

1. 専門能力を高度に研磨し質の高い創造的な研究を進めることができる。
2. 実際に生起している問題・課題の対応について実践的観点から開発的研究を進めることができる。

聖徳大学大学院では、以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、修了を認定し、修士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

聖徳大学大学院では、各研究科の学修成果を体系的に達成するために、それぞれの独自の共通科目と専門教育科目を設定し、以下の方針に基づいて教育課程を編成しています。

1. 共通科目としての「研究方法論」等、専門関連科目の「特論」等を設定し、基礎的な学術研究能力とともに、学際的な知見と洞察力を育成します。

2. 多様な選択科目の「特論」等を設定し、高度な実践力と問題・課題解決力を育成します。
3. 修士研究の成果を具体化するために実習・演習科目群を設定し、修士論文及び課題研究を作成する実力を育成します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

聖徳大学大学院は、基礎的な学術研究能力とともに新たな認識と価値を創造できる専門性に優れた研究能力を備えた人材と現実社会の問題・課題について具体的な実践の場から要請される高度な専門的解決力を備えた人材を育成することをめざしています。

聖徳大学大学院はこうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。

1. 専門領域における明確な課題ないし目的意識、及び研究に対する熱意を有している人。
2. 主体的かつ協働的に研究に取り組むことができる人。
3. 高度専門職職業人ないし研究者として社会及び学界で活躍したい強い意思を有する人。

聖徳大学大学院ではこのような人を受け入れるために、学部卒業相当と認められる学力試験を含め、実技試験、口述試験、面接を実施し、研究能力を多様な角度から総合的に判断します。

聖徳大学大学院 博士後期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

聖徳大学大学院は、1933年に創立された東京聖徳学園の建学の精神である「和」を教育理念としています。本学大学院は、この理念を社会に創造的に活かしながら、多彩な総合的かつ学際的な教育・研究体制を構築し、時代に求められるより高度な専門的職業人と研究者の養成を行い、斯界に有意な人材を多数輩出しています。

大学院をとりまく現代社会は、極めて早い速度で進行する個人・社会・自然に関わる価値観の多様化・複雑化にともない、予想もしなかった変化に直面しています。それ故に、文化・社会・自然及びこれらと人間自身との関係についてのこれまでの概念を転換し、かつ人間の尊厳、生命に対する新たな認識と価値を創造する学術研究者の養成が求められています。

聖徳大学大学院博士後期課程は、我が国最初となる児童学研究科を中心に5研究科から構成され、如上の現代社会の要請に応える教育・研究体制を整え、高度な学術研究を担う研究者の養成を行っています。とくに、児童学研究科では、我が国で最初の設置となる通信制大学院博士後期課程において、高等教育機関の教員を含めた多様な社会人に対して博士の学位を多数授与する実績を積むとともに、教職大学院を修了した人材に対しても学習の途を開いています。

聖徳大学大学院博士後期課程は、上記の基本認識に基づいて、以下の教育目標を掲げています。

【教育目標】

1. 質の高い研究手法を駆使して新たな認識と価値を創造できる専門性に優れた研究能力を育成する。
2. 学会で研究活動を展開し、内外の高等教育機関及び研究機関などで活躍できる研究能力を育成する。

こうした教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

【学修成果】

1. 専門能力を高度に研磨し質の高い創造的な研究を進めることができる。
2. 研究を計画的に進め、その成果を学術誌で公表し、併せて学会でのプレゼンテーション・ディスカッションができる。

聖徳大学大学院では、以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、修了を認定し、博士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

聖徳大学大学院博士後期課程では、各研究科の学修成果を体系的に達成するために、次のように「特殊研究」や「特別研究」科目を編成・実施しています。

1. 独立した研究者に必要な高度な知見に基づく洞察力と分析力を育成します。
2. 博士研究を遂行できる学術研究能力を育成します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

聖徳大学大学院後期課程は、独立した研究者として内外の高等教育機関及び研究機関で活躍できる人材を育成することを目指しています。

こうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。

1. 博士前期課程ないし修士課程において高度な専門知識をすでに身につけた人。
2. 主体的かつ協働的に研究に取り組むことができる人。
3. 研究者として高等教育機関及び研究機関などで活躍したい強い意思を有する人。

聖徳大学大学院後期課程ではこのような人を受け入れるために、博士前期課程ないし修士課程修了相当と認められる学力試験を含め、実技試験、口述試験、面接を実施し、研究能力を多様な角度から総合的に判断します。

児童学研究科 博士前期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

児童学研究科博士前期課程は、児童学に関する我が国最初の修士学位を授与する研究科として、多くの研究者と高度専門職業人を輩出してきました。

現代社会は、従来の保育・教育等に関わる大学院の対象・専門領域のみでは解決できない多様な課題を抱えています。例えば、保育・学校における校種間連携、社会教育における他職種間連携など、発達段階（乳児期・幼児期・児童期・青年期等）や専門領域（保育学、教育学、心理学等）ごとに研究者を養成してきた従来の大学院研究科では対応が困難となってきました。

そこで、本研究科では、児童の発達の連続性、継続性を踏まえ、教育・発達領域における児童期（小学校段階）の捉え方を広げ、乳児から青年までを研究対象とすることによって、下記のような人材を養成し社会の発展に貢献します。

1. 従来の児童期（小学校段階）に関する専門領域のみでは解決できない新たな課題についての研究能力を備えた研究者と、現実社会で実際に課題解決を図れる高度専門職業人（実践研究者）を養成します。
2. 児童に関する多様な課題に対応するため、従来の児童研究の枠組みと異なる「児童学」の立場から研究や実践を行うことができる人材を養成します。また、多様な視点から児童を捉える能力を養成するため、児童に関する多様な専門領域の体系的知識と課題解決能力を修得した人材を養成します。

上記の内容を具体化するために以下の教育目標を設定します。

【教育目標】

1. 児童研究に携わる者としての要素となる倫理性、人間性、及び基礎となる研究能力を育成する。
2. 児童研究に携わる者としての要素となる思考力・活用力を育成する。
3. 児童学に関わる専門領域の体系的知識を活用して課題解決を図る研究能力と汎用力を育成する。
4. 児童学の研究者・高度専門職業人（実践研究者）として必要な総合的実践力を育成する。

上記1～4の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

【学修成果】

1. 児童研究に携わる者として必要な倫理性と人間性を育成します。児童に対する多様な価値を受容し、多角的視点で児童をとらえることができる。
2. 研究倫理を遵守して児童研究を進めることができる。
3. 自己を客観的に分析し論理的に思考を展開できる。
4. 児童について多角的に分析し、その視点に基づき多領域に活用できる。
5. 児童学のそれぞれの領域で修得した知識や技能を活用して汎用的に問題解決できる。
6. 児童学のそれぞれの領域で必要とされる知識をもち研究につなぐことができる。
7. 児童学の研究者・高度専門職業人（実践研究者）として自立して新しい課題を解決で

きる。

8. 児童学の研究者・高度専門職業人（実践研究者）として協働して新しい課題を解決で
きる。

以上のような学修成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に修士（児童学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

児童学研究科博士前期課程の教育目標に基づいた学修成果を達成するために以下の点を重視した教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 児童学の基礎を広く学ぶとともに、児童学を研究するための心構えと方法を学ぶための「研究基礎力科目群」を設置します。
2. 児童学の知識や技能を身につけるために用いる思考力、活用力、汎用力を深めるための「研究力科目群」を設置します。
3. 児童学の知識や技能を活用して課題を解決できるようにするための「汎用力科目群」を設置します。
4. 児童学の課題を個人研究者として、また協働研究者として解決できるようにするための「実践力科目群」を設置します。

【教育課程実施の方針】

1. 「研究基礎力科目群」では、例えば「児童研究基礎論」において児童学6領域の概念や研究法の基礎を修得します。また「児童教育学特論（Ⅰ）」において児童教育学領域の研究内容の理解と基本概念を修得します。
2. 「研究力科目群」では、例えば「児童教育学特論（Ⅱ）」において児童教育学の最先端の研究を理解し、それを踏まえた最新の研究を進める能力を修得します。
3. 「汎用力科目群」では、例えば「児童発達評価演習」において児童心理学領域で修得した知識や技能を活用して児童発達の評価ができる能力を修得します。
4. 「実践力科目群」では、例えば「児童心理実践研究」において実際の研究課題に対処できる課題解決能力を修得します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

児童学研究科博士前期課程は、児童学の研究に携わる者としての倫理性、思考力、及び研究能力を備えた人を求めています。具体的には以下のような入学者を求めています。

1. 児童に対する広く深い関心をもち、理解したいという意欲をもっている人。
2. 児童に関する問題に取り組む積極性と専門性を身につけようとする強い意志をもっている人。
3. 児童学研究を推進する上で必要な追究心や社会性を備えている人。

以上の観点から学力試験（専門知識、小論文）、口述試験を通して判断します。

児童学研究科 博士後期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

児童学研究科博士後期課程は、児童学に関する我が国最初の博士学位を授与する研究科として、多くの研究者と高度専門職業人を輩出してきました。

現代社会は、従来の保育・教育等に関わる大学院の対象・専門領域のみでは解決できない多様な課題を抱えています。例えば、保育・学校における校種間連携、社会教育における他職種間連携など、発達段階（乳児期・幼児期・児童期・青年期等）や専門領域（保育学、教育学、心理学等）ごとに研究者を養成してきた従来の大学院研究科では対応が困難となってきました。

そこで、本研究科では、児童の発達の連続性、継続性を踏まえ、教育・発達領域における児童期（小学校段階）の捉え方を広げ、乳児から青年までを研究対象とすることによって、下記のような人材を養成し、社会の発展に貢献します。

1. 児童学分野において、自立した活動を行うのに必要な深い知識・理解と分析力を備えた研究者と高度専門職業人（実践研究者）を養成します。
2. 児童学に関する新しい課題を解決できる優れた研究能力を有し、現在の研究水準を超える研究成果を生み出すことのできる人材を養成します。

上記の内容を具体化するために、以下の教育目標を設定します。

【教育目標】

1. 児童研究に携わる者としての要素となる倫理性・人間性を基盤として、新たな課題に取り組む力を育成する。
2. 児童研究に必要な深い知識・理解と分析力により新たな課題を解決する力を育成する。
3. 課題解決の結果を、優れた研究成果として学術論文で公表する力を育成する。
4. 研究成果を現実社会で実践し、検証する力を育成する。

上記1～4の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

【学修成果】

1. 児童研究に携わる者として必要な倫理性、人間性を基盤として、児童に対する多様な価値を受容し、多角的視点で児童をとらえた課題設定ができる。
2. 研究倫理を遵守して児童研究を進めることができる。
3. 既存の児童研究の成果を客観的・多角的に分析することができる。
4. 既存の研究の課題を踏まえ、新たな課題とその解決方法を示すことができる。
5. 新たな課題を、深い知識・理解と分析力により解決することができる。
6. 研究成果を学会で発表し、学術雑誌に掲載することができる。
7. 研究成果を現実社会において実践し、検証するとともに、新たな課題を設定できる。

以上のような学修成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に博士（児童学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

児童学研究科博士後期課程の教育目標に基づいた学修成果を達成するために、以下の点を重視した教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

児童学領域の深い知識・深い理解と分析力を修得するとともに、児童学を研究するため心構えと方法を修得します。具体的には八つの特殊研究（児童教育学、発達心理学、児童保健学、児童福祉学、児童文化学、保育学、保育マネジメント、教科内容学）のうち二つ以上を履修することにより、それぞれの研究に必要な深い知識・理解と分析力を修得します。

【教育課程実施の方針】

1. 児童学領域の分析方法を理解し、新しい課題の解決ができるよう指導を行います。
具体的には、博士後期課程担当教員のもとで指導を行います。その成果をもとに、児童学研究所紀要や児童学関連学会での発表と学術雑誌への投稿・掲載を行いながら、中間発表、最終発表会を経て、博士論文を作成します。
2. 高度専門職業人の博士論文作成にあたっては、研究成果を現実の社会において実践し、検証できるよう指導を行います。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

児童学研究科博士後期課程は、児童学の研究に携わる者としての倫理性、思考力、及び研究能力を備えた人を求めています。具体的には以下のような入学者を求めています。

1. 博士前期課程(修士課程)において児童学に関する研究主題をもっている人。
2. 児童に関する問題に取り組む積極性と専門性を身につけようとする意欲と資質を備えている人。
3. 児童学研究を推進する上で必要な追究心や社会性を備えている人。

以上の観点から学力試験（外国語、基礎科目、専門科目）、口述試験を通して判断します。

臨床心理学研究科 博士前期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

臨床心理学研究科博士前期課程は、臨床心理士養成大学院として、高度な専門知識と技能をもって人々の福祉増進に携わる臨床心理士を多数輩出してきました。

現代日本では、グローバル社会が進行し、異なる文化や多様な価値観をもつ人々と共存し、豊かな社会を実現していこうとしています。一方、社会格差は増大し続け、テロ事件や自然災害など人間の尊厳や生命への脅威が大きな社会問題となっています。これら問題からもたらされる心の傷をケアする高い倫理性と高度な専門性をもった臨床心理士の育成が求められています。そうした社会的要請を背景として臨床心理学研究科博士前期課程では、心理臨床の高度な実践力と豊かな人間性を兼ね備えた人材、深い学識と高度な研究能力を有する研究者を育成します。それを具体化するために以下の教育目標を設定します。

【教育目標】

1. 種々の臨床心理査定技法や面接援助技法を修得し、実践トレーニングによって、客観的、多面的に対象者を理解し、心の問題に的確に対応する実践力を育む。
2. 臨床心理的地域援助に必要な知識と介入法を修得し、危機介入や地域社会・コミュニティと連携して緊急支援することのできる臨床心理士を育成する。
3. 高い倫理観をもって実践することができ、社会の要請に応える臨床心理士を育成する。
4. 臨床心理学に関する研究・調査法に習熟し、実証的に心理的問題の解決法を提案できる臨床心理士を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

【学修成果】

1. 臨床心理査定の理論と技法を獲得し、心の問題を理解しながら各種心理査定法を活用して、援助計画を立てることができる。
2. 臨床心理面接に関する知識を獲得し、対象に応じて面接実践することができる。
3. 臨床心理的地域援助に関する理論と事例を理解し、予防策や危機介入法を提案できる。
4. 事例検討会、個人スーパーヴィジョン及びグループ・スーパーヴィジョンを通して、臨床心理士に求められる倫理観を身につけ、多様な価値観を受け止めることができる。
5. 心理臨床実践に関する研究・調査法に習熟し、事例研究や修士論文執筆を通して、臨床心理学的諸問題の解決法を提案できる。

上記の学修成果に基づく教育課程において所定の単位を修得した人に修士（心理学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

臨床心理学研究科博士前期課程では、臨床心理士養成大学院として求められる教育課程編成の方針に加えて、心理臨床実践力をもった人材育成を目標として、最新の施設・設備を備えた大学附属心理教育相談所等の実習や事例検討会、スーパーヴィジョンを含めた教

育課程を以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

1. 心理査定技法及び面接援助技法の修得と査定実践力育成科目

心理査定技法や面接援助技法を修得するために、種々の心理検査法や面接技法を学び、大学附属心理教育相談所等における実習、スーパーヴィジョン及び事例検討会によって高度な心理臨床実践力を育成します。

2. 臨床心理学及びその近接領域諸理論に関する科目

心理臨床実践の基礎となる臨床心理学諸理論を体系的に学びます。

3. 臨床心理地域援助に関する科目

「家族臨床心理学特論」、「学校臨床心理学特論」、「職場臨床心理学特論」によって、臨床心理学的予防介入、危機介入法、援助法を学びます。

4. 心理臨床実践に関する研究・調査に関する科目

自らの問題意識から研究課題を設定し、実証研究を通じて、臨床心理学的諸問題に対する解決策の提言ができるようにします。

【教育課程実施の方針】

臨床心理学研究科博士前期課程では、学修成果を達成するために、授業計画（シラバス）に教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

授業方法として、アクティブ・ラーニング、大学附属心理教育相談所を駆使した臨床心理実習、実務経験豊かな教授陣によるスーパーヴィジョン、事例検討会を導入した高度な教育を実施します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

臨床心理学研究科博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を理解し、達成できる資質をもった人を求めています。具体的には、次のような入学者を求めます。

1. 高度な知識と技法を身につけるための基礎となる心理学諸領域の知識をもち、人間を複眼的に見ることのできる人。
2. 心理学研究法・調査法を理解し、物事の真意を検証する実証的態度をもつ人。
3. 臨床心理士を目指し、その職務が人に関わり、人に影響を与える専門家であることを自覚し、多種多様な価値観を尊重し、対人コミュニケーション能力をもつ人。
4. 自分の心と向き合うことを恐れず、自身の心身健康を管理、維持することのできる人。

以上の観点から学力試験（英語、基礎心理学、臨床心理学）、面接を通して判断します。

臨床心理学研究科 博士後期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

臨床心理学研究科博士後期課程は、種々の現場で活躍している臨床心理士に対して実践指導するスーパーバイザーの育成を目的として設立された日本では数少ない研究科の一つです。少子高齢、グローバル化による社会変動や自然災害に対する不安の高まる現代日本において、高度な専門性をもった臨床心理士による心理的支援の必要性がますます高まっています。

このような社会的要請に応えるべく、本学臨床心理学研究科博士後期課程では、多様な心理支援の現場に関わる臨床心理士に対して指導することのできるスーパーバイザーを育成します。そのために以下のような教育目標を設定します。

【教育目標】

1. スーパーバイザーに必須の高度な理論的・実践的指導力を育む。
2. 臨床心理的諸課題に対応できる優れた感覚と高度の研究能力を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

【学修成果】

＜洞察力と統合的实践力＞

種々の臨床心理査定技法や面接援助技法をもち、人間を理解しようとする深い洞察力と、臨床心理学に関する領域横断的な知識と技法をもって、総合的に臨床心理士を指導できる。

＜高度な研究能力＞

臨床心理学研究の深化と進歩に追随することができ、臨床心理実践に即した研究を自立・推進し、新たな知見を導出できる。

上記の学修成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に博士（心理学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

臨床心理学研究科博士後期課程では、より高度な実践力と研究能力を有した指導者を育成するために最新の施設・設備を備えた大学附属心理教育相談所においてスーパーヴィジョンの試行による実践訓練を含めた教育課程を以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

1. 実践指導力の育成

大学附属心理教育相談所において事例を担当するとともに、博士前期課程の学生に対するスーパーヴィジョンを試行し、実践に即した訓練、指導を行い、現場実践活動を通して指導力を養います。

2. 臨床心理学に関する領域横断的知識の獲得と研究能力の育成

臨床心理学的課題を探究するために、種々の臨床心理学理論モデルと研究法を学習し、広い視野と深い洞察力を養い、科学的な根拠をもとに、効果的な心理的援助法を提案で

きる研究課題を設定し、研究活動を展開しながら、博士論文を作成します。

【教育課程実施の方針】

臨床心理学研究科博士後期課程では、スーパーバイザーとして求められる学修成果を達成するために、授業計画（シラバス）に以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 研究活動及び博士論文の作成を主指導教員と二名の副指導教員の体制で指導します。
2. スーパーヴィジョン試行による実践実習と事例検討会による指導を行います。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

臨床心理学研究科博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を理解し、達成できる資質をもった人を求めています。具体的には、次のような入学者を求めます。

1. より高度な心理臨床的技量を身につけ、臨床心理士のスーパーバイザーとして指導を行いたいという目的をもつ人。
2. 博士後期課程における研究に必要な高度の専門知識を有し、臨床心理学の発展に貢献できる新たな知見を導出する意欲をもつ人。

以上の観点から、学力試験（英語、基礎心理学、臨床心理学）、面接を通して判断します。

言語文化研究科 博士前期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

言語文化研究科博士前期課程は、人類が営々と築き上げてきた言語、文学、歴史などの文化遺産を学問的に探究し、その成果を社会に還元することによって、現代社会に貢献できる有能な人材を育成することを基本理念とします。

グローバル化が進展する現代社会では、日本語と英語の高度な運用能力、異文化理解、海外の文化の受容、日本文化の発信などができる人材が求められています。言語文化研究科博士前期課程では留学生や社会人を含む有為な学生を広く募り、日本と英米の文化・文学・言語を共時的・通時的観点から研究し、専攻横断的な共通科目の履修によって語学力を向上させ、異文化理解を深め、図書館情報と書道文化の領域においても研究力と技能の向上を図っています。このように高い専門性と広汎な知識と技能に裏打ちされた高度専門職業人を育成し、基本理念に従い次のような教育目標を掲げ、社会の要請に応えます。

【教育目標】

1. 日本文化・英米文化の専門知識と分析・洞察力によって、研究を遂行できる人材を育成する。
2. 日本文化・英米文化の特質を十分に理解し、広汎な知識と高い語学力を駆使して異文化の受容と発信ができ、教育者として社会に貢献できる人材を育成する。
3. 高度な専門知識、広汎な情報、柔軟な思考力を身につけた人材を育成する。

以上の教育目標に基づき、以下の学修成果をあげた人に修士（日本文化）または修士（英米文化）の学位を授与します。

【学修成果】

1. 課題に係る事象を客観的に考察・分析し、研究倫理を遵守して研究を遂行できる。
2. 個別にまたは他者と協働して課題を解決し、その成果を社会に広く発信できる。
3. 異文化理解を深め、高度な語学力を駆使して文化の受容と発信に貢献できる。
4. 知識と教養と専門性を身につけた高度専門職業人として教育上の指導ができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

学位授与の方針に即して、日本文化専攻と英米文化専攻では次の五点を踏まえたカリキュラムを編成します。

1. 言語文化研究科博士前期課程の「共通科目」群を通して、文化や言語に係る事象の普遍的な側面に触れ、両者を機能的に関連付け、専攻を横断した研究指導が受けられる。
2. 日本文化・英米文化、日本文学・英米文学、日本語学・英語学という専門科目群を通して、二つの専攻における三つの領域（文化、文学、語学）で個別の研究が行える。
3. 専攻ごとの専門科目の中の「関連科目」群を通して、研究の幅を広げられる。
4. 「日本語教育特別研究」と「英語教育論」を通して、国語と英語の教科指導力を向上さ

せられる。

5. 「日本語表現研究」と「英語表現論研究」とおして、日本語と英語の運用能力を向上させられる。

【教育課程実施の方針】

言語文化研究科博士前期課程で育成する能力が確実に身につく、修士論文が作成できるように、院生一名につき複数の教員が指導にあたります。学卒者・留学生・社会人に開かれた研究科として、とりわけ、現職教員のリカレント教育の推進のために、「昼夜開講制」をとり、学生の学習環境に応じて教育・研究指導が受けられる時間割編成とします。

講義は学生数に応じて研究計画に関係の深い内容、または学生の研究に共通の内容とします。また、日本文化の受容と発信の強力な担い手となり得る海外からの留学生に対する日本語と日本文化の指導・支援体制を強化します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

日本文化専攻・英米文化専攻では、ディプロマ・ポリシーで掲げているとおり、日本文化・英米文化の領域において高度な研究能力を発揮し、両文化の特質を十分に理解し、日本語・英語の運用能力を駆使して社会に貢献できる高度専門職業人を育成することを目的としています。それゆえ、このような目的を十分に理解し、自己の研究目的を達成できる人、具体的には次に掲げるような入学者を求めています。

1. 日本または英米の文化・文学・言語について広汎かつ詳細な知識を身につけている人。
2. 研究に必要な学力、意欲、および日本語・英語の高度な運用能力を身につけている人。
3. 課程修了後、高度専門職業人としての社会貢献に意欲的な人。

学部卒業に相当する学力、日本語・英語の運用能力、主体的で旺盛な研究意欲、日本文化・英米文化の研究と教育に対する関心、異文化理解とコミュニケーションの重要性に対する認識などについて、筆記試験、口述試験、実技試験、面接を課し、それらの結果に基づき多面的、総合的に評価します。

言語文化研究科 博士後期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

言語文化研究科博士後期課程は、国内外から有為な学生を募り、日本と英米の文化・文学・言語の特質を探究し、高度な語学力を駆使して研究成果を発信できる有能な研究者・教育者を育成し、基本理念に基づいて次のような教育目標を掲げ社会の要請に応えます。

【教育目標】

1. 日本文化・英米文化に関する専門知識と分析力と洞察力によって、当該領域での研究課題を探究し、新たな知見、解釈、創見が提示できる人材を育成する。
2. 日本文化・英米文化の特質を十分に理解し、広汎な知識と高い語学力を駆使して異文化の受容と発信ができる人材を育成する。

以上の教育目標に基づき、以下の学修成果をあげた人に博士（日本文化）または博士（英米文化）を授与します。

【学修成果】

1. 日本と英米の文化・文学・言語に係る事象を探究し、独自の説を展開できる。
2. 研究倫理を遵守し、個別に研究を遂行し、成果を社会に広く発信できる。
3. 知識と教養と専門性を身につけた研究者・教育者として社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

学位授与の方針に即して、日本文化専攻と英米文化専攻において次の三点を踏まえたカリキュラムを編成します。

1. 「論文指導」の科目群を通して博士論文が作成できる。
2. 文化・文学・言語に係る科目群を通して、専門領域の知識・知見を深められる。
3. 「関連科目」群を通して、研究に資する知識・知見・情報が得られる。

【教育課程実施の方針】

学位授与の方針に即して、日本文化専攻と英米文化専攻では次の三点を踏まえたカリキュラムを実施します。

1. 所定の期間で博士論文が作成できるように、院生一名につき複数の指導教員から成る指導体制を構築します。
2. 学卒者・留学生・社会人に開かれた研究科として、学生の学習環境に応じた教育・研究指導が受けられる「昼夜開講制」をとり、受講しやすい時間割編成とします。
3. 日本文化の受容と発信の強力な担い手となり得る海外からの留学生に対する日本語と日本文化の指導・支援体制を強化します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

言語文化研究科博士後期課程では、日本文化・英米文化の特質を究明し、成果を社会に

還元できる研究者の育成を目的としています。この目的を理解し、達成できる資質を備えた人、具体的には、次のような入学者を求めています。

1. 明確な研究計画を設定し、高度な専門知識・技能を身につけている人。
2. 高度な研究の遂行に必要な学力と日本語・英語の高度な運用能力を身につけている人。
3. 研究遂行に対する主体性と意欲、他者との共同研究に対する協調性を備えている人。

博士前期課程修了に相当する学力、日本語・英語の運用能力、研究計画、研究意欲などについて、筆記試験、口述試験、実技試験、面接を課し、それらの結果に基づき多面的、総合的に評価します。

人間栄養学研究科 博士前期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人間栄養学は、栄養・体・心の相互作用を総合的に研究対象とするものであり、食物から摂取される栄養素及びその体内代謝のみならず、心理さらに社会や文化などとの相互作用を研究対象としています。国民の健康の維持・増進、健康寿命の延伸は喫緊の課題であり、人間栄養学はそれらに応える学問であり、この分野の高いレベルの専門家の人材育成に対する社会の要望は大きいものがあります。

それに応えるために、人間栄養学博士前期課程は、栄養・身体・人間の心などを総合的に扱うことのできる教育・研究者及び実践的な高度専門職業人を養成し、さらに、そのことにより食を通じた国民の健康の維持・増進、健康寿命の延伸のための指導・提言という形で貢献をしています。

それを具体化するために、以下の教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 人間栄養学を人文・社会科学、食物科学、栄養科学の三方面から理解し、広く豊かな専門的学識を修得している人材を育成する。
2. 倫理観と精深な学識に基づいた研究能力を備えた人材を育成する。
3. 実地に役立つ実践的指導力・問題解決力を備えた人材を育成する。

上記の教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

【学修成果】

1. 心理学及び栄養・食品研究の基盤となる歴史・文化・政策など、人間栄養学に係る人文・社会科学的学識を有し、それに基づき論じることができる。
2. 食品の栄養・機能、加工・調理など食物科学、及び栄養の人体・健康、生活との係わりなど栄養科学における高度な専門的学識を有し、それに基づき論じることができる。
3. 教育・研究に必要な内外の情報を得て、適切な研究計画を組み立てて研究倫理に基づき研究を実施し、その結果を科学的に考察して公表し、さらにディスカッションすることができる。
4. 専修教諭免許状取得の栄養教諭、家庭科教諭として高度な教育・指導ができ、また、高度専門職業人として、専門知識に基づき実践的な栄養指導・管理、現場での課題解決に向けての研究に取り組むことができる。

以上の学修成果に基づいて編成した教育課程を履修し、修了した人に修士（栄養学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

講義、演習、課題研究を通じて、人間栄養学に係る広範囲な内容を総合的に理解し実践力のある教育・研究者及び高度専門職業人を育成します。科目構成として、文化、歴史、心理など人間栄養学の背景を学ぶ必修科目、研究計画、調査法、統計学など人間栄養学研

究における横断的な手法や学識を学ぶ基礎科目、高度な専門知識を学ぶ専門科目からなり、また専門科目は食物科学領域と栄養科学領域に区分して、学生が効率的かつ重点的に科目選択ができるようにしています。さらに、修士論文作成のための課題研究と演習を必修としています。

【教育課程実施の方針】

社会人の学習・研究が可能なように、昼夜いずれの時間帯においても履修可能なようにし、職場における実践経験を研究に活かせるように便宜を図ります。さらに、連携大学院制度による外部研究機関の研究資源の活用を通じて、教育・研究に幅と深さを持たせます。

1. 必修科目、基礎科目として心理学、及び食や栄養に係る歴史・文化・政策などについて講義を行い、さらに多様な話題を取り扱う総合講義や総合演習を行うことにより、人間栄養学における人文・社会科学的思考力を育成します。
2. 食物科学領域及び栄養科学領域の個々の科目について講義を行うとともに議論することにより、高度な専門知識に基づく理解力・思考力・判断力を育成します。
3. 課題研究や演習だけでなく、総合講義、基礎科目の研究計画、調査法に係る講義を通じて、研究倫理を学び、内外の専門書、文献を調査し理解できる能力、研究の計画・設計、実施する能力を育成します。さらに成果の学会または学術誌への公表、修士論文の作成を通じて、研究結果の科学的な考察と取りまとめ・公表を行う能力及びプレゼンテーション、ディスカッションする能力を育成します。
4. 専門科目での栄養・食指導に関する講義、及び演習、課題研究における教員らとの議論を通じて、高度な栄養教育、栄養管理・指導ができる能力を育成します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人間栄養学研究科博士前期課程は、栄養・身体・人間の心などを総合的に扱い、教育・研究・指導・提言のできる人材を育成するために、以下の教育目標を掲げています。

1. 人間栄養学における広く豊かな専門的学識
2. 倫理観と学識に基づく研究能力
3. 実地に役立つ実践的指導力・問題解決力

人間栄養学研究科博士前期課程は、上記の能力を獲得できる資質をもった人を求めています。具体的には次のような入学者を求めています。

1. 人間栄養学における明確な課題意識・研究目的、及び研究に対する熱意を持ち、研究者または高度専門職業人を目指す意欲と決意を有している人。
2. 内外の専門書や文献から専門知識・情報を得て理解するのに必要な基本的な語学力と情報取得能力を有する人。
3. 専門に係る教養としての食品科学、栄養科学分野の基本的専門知識を有している人。
4. 修士論文作成に向けた研究を遂行するのに必要な基礎的研究能力を有している人。

以上の観点から筆記試験（英語、食品科学、栄養科学）及び面接を通して総合的に判断します。

人間栄養学研究科 博士後期課程

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【教育目標】

超高齢化社会、ストレス社会において、栄養・体・心の相互作用を総合的な研究対象とする人間栄養学の果たす役割は大きく、博士号を有する高度な学識、研究能力、問題解決力のある人材への期待が高まっています。また、すでに管理栄養士などの職に就いている人は、博士号を取得することにより、職務の更なる専門化や高度化が可能となります。

それに応えるために、人間栄養学研究科博士後期課程は、栄養学の博士号を有する独立して研究・教育・指導のできる人材を養成し、さらに、そのことによりリーダーシップを発揮して学術面から今日の複雑かつ困難な栄養や健康に係る諸問題を解決するという形による社会への貢献をしています。

それを具体化するために、以下の能力を備えた人材を育成します。

【学修成果】

1. 人間栄養学の教育・研究を、国際レベルで独立して実践できる能力が認められる。具体的には、独立して研究を計画して実施することができ、研究成果を論文としてまとめ、国際的に、学術誌への公表や学会などでのプレゼンテーション、ディスカッションができる。
2. 栄養・健康に係る課題に対して、大局的かつ実践的な提言や指導、また高等教育を行う能力を有する。具体的には、大学、短期大学などにおいて、専門領域について講義・指導をすることができ、また、病院、保健所などにおいて、高度な健康・栄養問題について指導や問題解決に向けた提言をすることができる。

以上の学修成果に基づいて編成した教育課程を履修し、修了した人に博士（栄養学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

博士号を有する高度な学識、研究能力、問題解決力のある人材を育成するため、演習を通じて専門的学識を深化させ、研究を通じて実践的かつ国際的な研究能力を育成します。

【教育課程実施の方針】

1. 研究の計画、実施、結果の取りまとめなどを自身で行わせ、成果は論文として国際的な学術誌への公表や国際学会での発表をさせることにより、国際レベルで独立して研究の計画、実施、成果発表ができる能力を育成します。
2. 演習及び研究において、研究分野の国内外の最新情報・知見を収集するとともに研究結果などについて議論することにより、専門分野の学識を深化させつつ、高度な指導力、判断力を育成します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人間栄養学研究科博士後期課程は、栄養、身体、人間の心などを総合的に扱い、教育・研究・指導・提言のできる人材を育成するために、以下の教育目標を掲げています。

1. 国際レベルで独立して教育・研究できる能力
2. 栄養・健康に係る高等教育、高度な指導や問題解決のできる能力

人間栄養学研究科博士後期課程は、上記の能力を獲得できる資質をもった人を求めています。具体的には次のような入学者を求めています。

1. 専門分野の研究に対する熱意、博士の学位論文を完成させる強い覚悟を持ち、大学等の教員・研究者または高度専門職業人を目指す意欲と決意を有している人。また、すでに職に就いている人においては、博士号取得による職務の専門化・高度化に対する向上心がある人。
2. 目的とする分野の研究を遂行して課程を修了するのに必要な語学力、専門知識などを有している人。
3. 博士論文作成に向けた研究を遂行するのに必要な研究能力を有している人。

以上の観点から、筆記試験（英語、専門知識）及び面接を通して総合的に判断します。

看護学研究科 看護学専攻

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学研究科は、地域の保健医療福祉並びに教育環境の向上に寄与するために、建学の精神である「和」の精神と人間の尊厳を基盤とし、広範な視点から看護学の学識を教授し、高度専門職業人として変化に創造的に対応できる看護学の専門的知識と技術及び教育研究能力をもった人材の育成を目指し、以下の教育目標を掲げています。

【教育目標】

1. 高い倫理観と広い視野をもって組織運営の改善・改革を促進できる高度な看護実践力を育成する。
2. 保健医療福祉並びに教育分野での連携などに対応するために、他分野の専門職と協働して問題解決を図るための高度なコミュニケーション力及び合意形成力や看護を管理・指導する力を育成する。
3. 看護現象を科学的かつ論理的に探究・分析できる研究力を育成する。

上記1～3の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

【学修成果】

1. 生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観を備えた看護職として、管理・教育・研究・実践の場でリーダーとして行動できる能力を有する。
2. 総合的視野に立って、多職種多機関と協働して最適な保健医療福祉サービスを統合して提供できるようなマネジメント力を有する。
3. 保健医療福祉及び教育の場における課題に関して主体的に取り組み、科学的・論理的な分析に基づき検討・提言する能力を有する。

以上のような学修成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に修士（看護学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成・実施の方針】

看護学研究科は、研究科の教育目標を達成するために、以下の基本方針に基づいて教育課程を編成しています。

1. 深い人間理解に基づく倫理観の涵養

生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観と思想性を備えた人材の育成のために主たる科目として専門基礎科目に「教育哲学」「医療倫理」を置く。

2. 保健医療福祉及び教育の場における課題に主体的に取り組むリーダーとして行動できる能力の育成

最適なサービスを提供できる高度な管理能力や指導力及び実践力を育成するため、専門基礎科目に「看護マネジメント論」「看護継続教育論」「医療システム安全学」「医療経営学」「医療制度論」「生涯教育論」を置く。

3. 科学的判断力・思考力の育成

科学的・論理的な分析に基づき検討・提言する能力を育成するため、専門基礎科目に「看護学研究法Ⅰ」「看護学研究法Ⅱ」「看護学理論」「教育方法の理論」「保健・医療統計学」を置く。また、様々な看護現象を研究的に探究する能力を身に着けるために研究科目に「特別研究」を置く。

4. 高度な専門的知識・技術の育成

専門科目には、修了後のキャリア・デザインに基づく、各自の課題に沿った体系的な探求を可能とするため、2分野7領域を置く。また、専門科目には、探求を積み重ねて各領域の専門性を深めるためにそれぞれに特論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱを置く。

【教育課程実施の方針】

看護学研究科では、大学院での学修が効果的に進むよう、主研究指導教員は副研究指導教員とともに、履修科目及び研究活動全般について、院生の相談に応じ、学修及び研究に必要な指導を行います。また、社会人学生個々の背景や学修準備状況に配慮して個別の研究指導を行います。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

看護学研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を理解し、達成できる資質をもった人を求めています。

具体的には、次のような入学者を求めます。

1. 看護学の基本的な知識や技術を有している人
2. 看護実践及び看護学への強い関心と問題意識を有している人
3. 将来に対するビジョンと信念を有し、看護実践・看護学の発展に貢献する意欲を有する人
4. 看護実践の質的向上に真摯な姿勢で取り組み、実践においてリーダーとして活躍したい人
5. 看護管理者又は看護教育者として活躍したい人

入学者選抜を行うにあたっては、研究計画、実務経験等について、事前に教員と相談を行います。入学試験は「一般入試」と「社会人特別入試」で選抜を行い、学力試験（専門科目）と面接試験並びに成績証明書等の事前提出書類により総合的に判定します。

音楽文化研究科 博士前期課程 音楽表現専攻

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

音楽文化研究科博士前期課程音楽表現専攻にあつては、設置以降、質の高い音楽家を中心に、多くの高度専門的職業人を輩出してきました。

現代社会がさまざまな課題に直面する中で、文化とりわけ音楽文化の力の重要性が改めて認識されています。人類が築きあげてきた豊かな音楽文化のさらなる発展のために、音楽家・表現者として文化力、人間力をもち国内外に貢献する人材の養成が社会から大きく求められるようになっていきます。総合大学の中に設置された音楽文化研究科という特質を活かし、音楽文化研究科博士前期課程音楽表現専攻では、次のような教育目標を掲げ社会の要請に応えます。

【教育目標】

1. 専門的能力を高度に研磨し、質の高い音楽表現活動を展開できる能力を有する人材を育成する。
2. より広い領域を視野に収めた優れた音楽家を目指し、研究成果をあげることのできる人材を育成する。

こうした教育目標に基づき、以下のような学修成果をあげた人に修士（音楽）の学位を授与します。

【学修成果】

1. より高度な専門理論・専門知識・専門技能を有し豊かに表現できる。
2. 広い視野からの研究活動を進めることができる。
3. 優れた音楽家を目指し研究成果を生み出すことができる。
4. 質の高い音楽表現活動が展開できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

学位授与の方針に則して、音楽文化研究科音楽表現専攻においては次の三点をふまえたカリキュラムを編成します。

1. 研究科共通科目である「課題研究」を通して、音楽文化に関する見識を深め、各研究分野の課題設定と修士論文作成のための具体的考察を行う。
2. 音楽表現専攻共通科目である「音楽文化研究」科目を通して、広い視野からの研究を促し、音楽文化の歴史及び現状を正しく理解し、その展望についての学識を深める。
3. 学部において学習した作曲実技、演奏実技等の成果に基づきながら、さらなる表現実技の深化を図るとともに、音楽理論、演奏理論の学術的研究を深める。

【教育課程実施の方針】

教育課程については、研究テーマに関する課題を自ら発見し、解決への方法を立案し解決を図るという主体的、創造的な方法を中心に実施します。また、演奏や舞台などを協働

してつくるチーム基盤的な学修について、より高度な専門的力量を背景にしたアクティブ・ラーニング的手法も取り入れながら実施します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

音楽文化研究科音楽表現専攻では、ディプロマ・ポリシーにも掲げるように、専門的能力を高度に研磨し、質の高い音楽表現活動を展開できる能力を有し、より広い領域を視野に収めた優れた音楽家としての人材を養成しています。こうした目的を理解し、目的を達成できる資質をもった人を音楽表現専攻では求めています。具体的には、次のような入学者を求めています。

1. より高度な専門理論・専門知識・専門技能を研鑽するための能力と研究意欲をもつ人。
2. 広い視野からの研究活動を展開することのできる資質を有する人。
3. 優れた音楽家を目指す研究成果を生み出す能力をもつ人。
4. 質の高い音楽表現活動の展開を目指すことのできる人。

学部卒業相当と認められる学力、主体的な研究心、創造的に考え高度に表現できる力などについて、実技試験、口述試験、学力試験、面接を通して多様な角度から判断します。

音楽文化研究科 博士前期課程 音楽教育専攻

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

音楽文化研究科博士前期課程音楽教育専攻においては、設置以降、高い専門的力量と研究的能力を背景にして音楽教育、音楽療法等にかかわっていく高度な専門的職業人を養成してきました。

現代社会がさまざまな課題に直面する中で、音楽文化やそれを応用することの重要性が改めて認識されています。人類が築きあげてきた豊かな音楽文化のさらなる発展のために、文化力、人間力をもった音楽キャリア人として社会に貢献する研究的資質を有した専門的職業人の養成が大きく求められています。総合大学の中に設置された音楽文化研究科という特質をも活かし、音楽文化研究科博士前期課程音楽教育専攻では、次のような教育目標を掲げ社会の要請に応えます。

【教育目標】

1. 音楽教育における今日的課題を反映した研究成果をあげることのできる人材を育成する。
2. 音楽文化の発展に寄与する研究成果をあげることのできる人材を育成する。
3. 人間の福祉・健康に関わる社会的ニーズに音楽面から応える研究成果をあげることのできる人材を育成する。

こうした教育目標に基づき、以下のような学修成果をあげた人に修士（音楽）または修士（音楽療法）の学位を授与します。

【学修成果】

1. 音楽教育における今日的課題を反映した研究成果を生み出すことができる。
2. 音楽文化の発展に寄与する研究成果を生み出すことができる。
3. 人間の福祉・健康に役立つ社会的ニーズに応える研究成果を生み出すことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

学位授与の方針に則して、音楽文化研究科博士前期課程音楽教育専攻においては次の3点をふまえたカリキュラムを編成します。

1. 研究科共通科目である「課題研究」を通して、音楽文化に関する見識を深め、各研究分野の課題設定と修士論文作成のための具体的考察を行う。
2. 音楽教育専攻共通科目である「音楽文化研究」科目を通して、広い視野からの研究を促し、音楽文化の歴史と現状を正しく理解し、その展望についての学識を深める。
3. 学部において学習した音楽教育、音楽研究、音楽療法の成果に基づきながら、知識と音楽技術の深化を図るとともに、それらのより発展的な学術的研究を展開する。

【教育課程実施の方針】

教育課程については、研究テーマに関する課題を自ら発見し、解決への方法を立案し解

決を図るという主体的、創造的な方法を中心に実施します。また、自己の研究テーマに関する学修について、より高度な専門的力量を背景にしたPBLなどを含んだアクティブ・ラーニング的手法も取り入れながら実施します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

音楽文化研究科音楽教育専攻では、ディプロマ・ポリシーにも掲げるように、音楽文化の総合的な理解、音楽に対する社会的ニーズや課題の理解を前提とし、音楽教育における今日的課題を反映した研究成果、あるいは音楽文化の発展に寄与する研究成果や人間の福祉・健康に関わる音楽の社会的ニーズに応える研究成果を生み出す人材を養成しています。

こうした目的を理解し、目的を達成できる資質をもった人を音楽教育専攻では求めています。具体的には次のような入学者を求めています。

1. 音楽教育における今日的課題を反映した研究成果を生み出す能力をもつ人。
2. 音楽文化の発展に寄与する研究成果を生み出す能力をもつ人。
3. 人間の福祉・健康に役立つ社会的ニーズに応える研究成果を生み出す能力をもつ人。

学部卒業相当と認められる学力、主体的な研究心、創造的に考え発展的に研究できる力などについて、学力試験、口述試験、実技試験、面接を通して多様な角度から判断します。

音楽文化研究科 博士後期課程 音楽専攻

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

音楽文化研究科博士後期課程音楽専攻においては、設置以降、さらに高度な専門的力量と研究的能力を背景にして音楽表現、音楽教育、音楽療法等にかかわっていく、より高度な専門的職業人や音楽文化発展のために指導的役割を果たすことのできる人材を輩出してきました。

現代社会がさまざまな課題に直面する中で、音楽文化やそれを応用することの重要性が改めて認識されています。人類が築きあげてきた豊かな音楽文化のさらなる発展のために、文化力、人間力をもった音楽家、音楽キャリア人として社会に貢献し音楽文化発展のために指導的な役割を果たす音楽的、研究的資質を有した高度な専門的職業人の養成が大きく求められています。総合大学の中に位置する音楽文化研究科という特質を活かし、音楽文化研究科博士後期課程音楽専攻では、次のような教育目標を掲げ社会の要請に応えます。

【教育目標】

1. 音楽における表現領域を拡大し、さらに新しい表現の場を創出する研究成果をあげることのできる人材を育成する。
2. 音楽文化の発展に寄与する研究成果をあげ、指導的立場に立つことのできる人材を育成する。
3. 音楽教育、人間の福祉・健康を推進するための高度な専門的研究成果をあげることのできる人材を育成する。

こうした教育目標に基づき、以下のような学修成果をあげた人に博士（音楽）の学位を授与します。

【学修成果】

1. 表現領域の拡大と新しい表現の場を創出できる。
2. 指導者としての能力をもち、音楽文化発展に寄与できる。
3. 音楽教育、福祉・健康を推進させるための高度な専門的研究成果を生み出すことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与の方針に則して、音楽文化研究科博士後期課程音楽専攻においては次の3点をふまえたカリキュラムを編成します。

【教育課程編成の方針】

1. 「音楽特殊研究」及び「特別研究」を通して、音楽文化に関する深い知識や洞察力、音楽表現のための高度な技術と広い視野を獲得し、各研究分野の課題設定と博士論文作成のための具体的考察を行う。
2. 音楽表現・音楽学・音楽教育・音楽療法に関する科目を通して、各分野に関する高度に専門的な知識や技術を身につける。

3. 「文献原典研究」を通して国内外の重要な研究成果を正しく理解し、自己の研究課題との関係を考察する。

【教育課程実施の方針】

教育課程については、自ら課題を発見し、課題解決へ向けた学習計画を立案し解決を図るという主体的、創造的な方法で実施します。また、いっそう高度な専門的力量を背景にしたディープ・アクティブ・ラーニング的手法も取り入れながら教育課程を実施し、研究活動を展開します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

音楽文化研究科博士後期課程音楽専攻では、ディプロマ・ポリシーにも掲げるように、高度に専門的で質の高い音楽家、研究者、実務家を養成しています。

こうした目的を理解し、目的を達成できる資質をもった人を音楽教育専攻では求めています。具体的には、次のような入学者を求めています。

1. 博士前期課程において、高度な専門知識・専門技能をすでに身につけた人。
2. 広い視野からの研究を展開する能力を有する人。
3. すぐれた音楽家、研究者、実務家としての資質を有する人。

博士前期課程修了相当と認められる学力、研究能力、音楽表現力、専門的職業人としての資質などについて、学力試験、実技試験、口述試験、面接を通して多様な角度から判断します。

教職研究科 教職実践専攻

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

現代社会が聖徳大学大学院教職研究科教職実践専攻に求める人材像は、より高度な専門性と豊かな人間性・社会性を身につけ、生涯にわたって専門職業人としての教師の職能を成長し続けることのできる人材です。

それに応えるために、本学大学院教職研究科は、確かな指導理論と高度で優れた実践的指導力・研究開発力・マネジメント力を身につけたスクールリーダーを養成します。

それを具体化するために、以下の教育目標を設定します。

【教育目標】

これまでの学部での学びで身につけた教師としての基礎的能力、または、これまでの教職経験と研究的実践で身につけた教師としての能力の上に、総合的な人間力、高度な専門的知識・研究開発力、授業実践力、マネジメント力、職能成長力を育成するとともに、教育者としての優れた人格を陶冶します。

上記の教育目標に基づき、以下の学修成果を設定します。

【学修成果】

1. 幼児または児童への深い愛情と使命感を持って教育にあたり、多様な人材を組織的、協働的に生かすチーム保育・チーム学校の担い手としての総合的な人間力を身につけている。
2. 幼児または児童を対象とした教育の理論と実践に関する高度な専門的知識、新たな指導方法に結びつく研究開発力を身につけている。
3. 幼児または児童の理解に基づいて保育内容及び教科内容を構想し、教育内容及び授業内容の構成・設計、計画、実施、評価を行うことができる実践力を身につけている。
4. 幼児教育または児童教育の課題を把握し、カリキュラム・マネジメントと組織マネジメントの視点に立ち、同僚とともに協働して課題解決に取り組む態度と、園及び学校の教育力の向上を図ることのできるマネジメント力を身につけている。
5. 高度専門職業人としてのキャリア発達の見通しを持ち、高度な専門的知識に裏付けされた自らの研究開発力、保育及び授業実践力を省察し、主体的に学び続け、絶えず向上し続けようとする職能成長力を身につけている。

以上のような学修成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に教職修士（専門職）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

教職研究科のカリキュラムは、「共通科目」と「選択科目」「総合実習」により構成されています。「共通科目」は学校教育と教員の在り方に関する領域、教育課程の編成・実施に関する領域、教科等の実践的な指導方法に関する領域、生徒指導・教育相談に関する領域、

学級経営・学校経営に関する領域及び特別教職実践演習により構成されています。「選択科目」は教育課程の編成・実施に関する領域、教科等の実践的な指導方法等に関する領域、生徒指導・教育相談に関する領域、学級経営・学校経営に関する領域により構成されています。「総合実習」は実際の園・学校における教育実習を通して、総合的な実践力を育成するものです。

【教育課程実施の方針】

これらの科目の中から、個々の学修者が主体的に「履修計画」を作成し、キャリアに応じた学修を通して、以下の資質・能力を育成します。

1. 幼児または児童に対する愛情と理解を基に、例えば、職業倫理、教員の在り方、コミュニケーション・スキル等の科目の学修を通して、総合的な人間力を育成します。
2. 教育に関する理論、教育内容と方法に関する専門知識、保幼小連携に関する研究方法等の学修を通して、教育の専門家としての高度な専門的知識や研究開発力を育成します。
3. 授業設計や授業分析、教材開発等にかかわる科目の学修を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業実践力を育成します。
4. 学級経営、学校経営、組織マネジメント、カリキュラム・マネジメント等の科目の学修を通して、組織的・協働的な教育の実現を図るマネジメント力を育成します。
5. 総合実習や課題研究等の科目の学修を通して、自己の職能を成長させようとする職能成長力を育成します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教職大学院は、幼児教育コース、児童教育コースという他の大学院にはないコース設定により、優れた教育実践力を有した専門職業人を育成するために次のような教育目標を掲げています。

これまでの学部での学びで身につけた教師としての基礎的能力、または、これまでの教職経験と研究的実践で身につけた教師としての能力の上に、総合的な人間力、高度な専門的知識・研究開発力、授業実践力、マネジメント力、職能成長力を育成するとともに、教育者としての優れた人格を陶冶します。

教職研究科は上記の能力を獲得できる資質を持った人を求めています。

<教職未経験者>

1. 教育に対する使命感、情熱及び行動力を有している人。
2. 幼児または児童教育に関する基礎的知識を修得している人。
3. 幼児または児童教育に関して、基礎的な教育実践力を修得している人。
4. 教育に関する諸問題に深い関心を持ち、客観的かつ論理的に考察することができる人。
5. 職業人としてのキャリア発達の見通しを持ち、主体的に学び続ける意欲を有している人。

＜現職教員＞

1. 教員としての高い使命感、情熱及び行動力を有している人。
2. 幼児または児童教育に関する専門的な知識を修得している人。
3. 幼児または児童教育に関して、経験に裏付けされた豊かで幅広い教育実践力を修得している人。
4. 教育課題解決に向けてスクールリーダーとして成長できる能力を有している人。
5. 高度専門職業人としてのキャリア発達の観点を踏まえながら、継続的に自己の職能を成長させようとする意欲を有している人。

教職研究科は、以上のような入学者を受け入れるために、多様な受験機会を設定し、書類審査（調査書、推薦書など）、専門知識、面接などによる入学試験を行い、総合的に評価します。

現職教員については、その実務経験に応じて総合実習の免除申請の審査も行います。

なお、中学校・高等学校または養護教諭の教員免許状を取得（含見込み）している人で、幼稚園・小学校の教員免許を取得していない人が受験する場合は、「幼稚園・小学校教員免許取得プログラム」を履修することができます。

聖徳大学

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

聖徳大学は、1933年に創立された東京聖徳学園の建学の精神である「和」を教育理念としています。本学は、この理念を社会に創造的に活かしながら、常に新しい教育に挑戦するとともに、時代を超えて求められる多様な他者への尊敬と共感を大切にする人間性を備えた女性を様々な世界に輩出しています。

現代社会は、政治・経済・文化のグローバル化が進み、個人・社会の価値観が多様化・複雑化し、きわめて多くの複合的な問題に直面しています。このような変化の激しい社会において、人間の尊厳を見失わず、自ら新たな問いを立て多様な他者と協働しながら新たな価値を生むための力の育成が求められています。

聖徳大学は、時代をリードする教育改革を進め、互いの価値観を共感的に受け止める確かな人間性、グローバルかつローカルな視点と学際的な洞察力、社会で発揮できる専門性の高い実践力をもつ人を着実に育成し、調和ある社会の発展に貢献しています。

聖徳大学は、上記の教育理念に基づいて、以下の四つの教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 他者を思いやる協調性ととともに、凜として生き抜いていくための確かな人間性を育成する。
2. 自己分析力、論理的思考力、自己管理能力を活かし、個別学問領域を超えたアイデアや洞察力と多面的な問題発見・解決力を育成する。
3. 専門分野に関する理論・知識・技能を修得し、理論と実践を結びつけて社会で発揮できる専門性の高い実践力を育成する。
4. グローバルな視野を備え地域で活躍できる専門性の高い実践力を発揮して、自分なりの価値を見だし、自らの意思で一步を踏み出すことのできる女性を育成する。

聖徳大学では、こうした教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

【学修成果】

1. 一流の文化・芸術がもつ普遍性と固有性を感受し、グローバルで多様な価値を受け止めることができる。
2. 思いやりと慎みの心をもって相手の立場に立ち、集団の中で自立した行動をとることができる。
3. 自己や事象を客観的かつ論理的に考察することができ、自己の生き方をデザインすることができる。
4. 個別学問領域を超えたアイデアや洞察力を活かし、自己の確立を図ることができる。
5. 専門分野に関する知識・技能を体系的に学び、理論と実践を結びつけて主体的に課題を解決することができる。
6. 専門領域に関わる理論と知識と技能を結びつけて、グローバルかつローカルな視点をもって、多様な実際的かつ実践的な問題や課題に主体的に、かつ協働して取り組むことができる。

できる。

聖徳大学では、以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

聖徳大学では、学修成果を体系的に達成するために、全学共通科目と専門教育科目の教育課程を以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

I 全学共通科目

全学共通科目は、「聖徳教育科目」、「教養科目」、「外国語科目」等から構成しています。

「聖徳教育科目」は「小笠原流礼法基礎講座」と「聖徳教育」から編成し、聖徳学園の建学の精神「和」に基づいた本学独自の人間教育を目的とし、確かな人間性を育成します。

「教養科目」は、文化、社会、自然、身体・精神などに関わるグローバルかつ複合的な諸現象や多様な問題状況に向き合い、個別学問領域を超えたアイディアや学際的かつ多面的な洞察力と学術を総合した問題解決力を育成します。

「外国語科目」等は外国語および的確な情報によるコミュニケーション・スキルを育成し、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力を育成します。

II 専門教育科目

学科の教育目的を達成するために専門性の高い実践力を育成する教育課程を編成しています。その編成は次の基本方針に基づいています。

1. 学科の専門性を習得するために不可欠な学術的な基礎力を育成します。
2. 現代的課題に対応した専門的理論と知識を学び、問題・課題解決のための基礎力を育成します。
3. 充実した演習・実習科目を設定し、実際場面における問題・課題解決を通して実践力を育成します。
4. 専門職業人として自立し、優れた感性と表現力、柔軟な思考力と行動力を備え、卒業後の現場で生きる専門性の高い資質・能力を育成します。

【教育課程実施の方針】

全学科において、全学共通科目と専門教育科目の学修成果を効果的に達成するために、授業計画（シラバス）を作成して以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 「到達目標」、「学修成果」、「評価の要点」を明示し、実施しています。
2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び他の授業科目との関連を明示しています。
3. 授業方法として能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を導入し、深い学びを促進しています。
4. 毎時間の「身につく資質・能力」と「予習・復習」時間を明記し、その実施を促進し

ています。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

聖徳大学は、総合大学という特質を活かして、変化の激しい社会を生き抜いていくための確かな人間性、どのような社会であっても不可欠な自己分析力、論理的思考力、自己管理能力、個別学問領域を超えたアイデアや洞察力と多面的な問題発見・解決力、そしてそれらを発揮して主体的にかつ協働して課題に取り組める、社会で発揮できる聖徳ならではの専門性の高い実践力をもつ人の育成を目指しています。

聖徳大学はこうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。具体的には、次のような人を求めています。

1. 学びを通して、自己の成長を実現したいという強い意欲をもっている人。
2. 学びを通して、社会に貢献する夢をもっている人。
3. 学内外で必要なコミュニケーション力などの基礎を備えている人。
4. 授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことができる人。

聖徳大学ではこのような人を受け入れるために、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、各学科での学習に必要な技能、知識、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、書類審査（調査書、推薦書など）、実技試験、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

児童学部 児童学科

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

児童学部児童学科は、児童を多面的に研究する児童学をベースに、七つのコース（「幼稚園教員養成コース」「保育士養成コース」「小学校教員養成コース」「特別支援教育コース」「児童心理コース」「児童文化コース」「スポーツ健康コース」）から小学校教諭・特別支援学校教諭・幼稚園教諭・保育士など複数の免許・資格が取得できる他にない学科の特質を生かして、多くの人材をこれまでのように輩出していきます。

現代社会は急速な変化を続けており、子どもの成長に関する新たな問題が次々と生じています。子どもに関する深い知識や技能をもち、創造的な思考力等を身につけ、他と協働しながら様々な問題を解決できる人材が求められています。児童学部児童学科は、子どもや保護者などから信頼される人間性と教養、問題解決力等をもった実践力のある人材の育成を通して、社会の発展に貢献することを目指して、次のような目標を掲げ教育を行います。

【教育目標】

1. 礼節や思いやりがあり、多様な価値観を受け入れられる人間性と、未来の子ども達に伝える芸術や文化に関する教養をもち、社会の発展に寄与する人を育成する。
2. 児童学の学びを通して、子どもの可塑性に富んだ活動に対応できる専門的な知識及び技能をもち、豊かな創造性を備えた人を育成する。
3. 高いコミュニケーション・スキルやリーダーシップ等を発揮し、他と協働しながら様々な問題に対応し解決できる実践力を育成する。

【学修成果】

上記の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

1. 礼節や思いやり、豊かな子ども観などをもって子どもに接するとともに、自律的に学び続けながらよりよい社会の形成に貢献することができる。
2. 児童の心や成長に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、論理的かつ創造的に考えることができる。
3. 身体表現や音楽、造形など豊かな表現方法で子どもとコミュニケーションするとともに、周りと協働しながら様々な問題に対して主体的に問題解決することができる。

以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、学士（児童学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程編成の方針】

児童学部児童学科は、学修成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 学部共通科目群

- (1) 児童学の学びを通して、子どもの多面的な活動を理論的に深め、具体化するための技能を身につけます。
- (2) 学問的背景を踏まえた折り紙や手遊び、ピアノなど多彩な表現力や教材作成の技能を身につけた上で実習を通して教育現場が求める実践力を磨きます。
- (3) 四年間の学び、そして卒業後の活躍を具体的にデザインするとともに、子どもに関する問題について、3年次ゼミ、4年次の卒業研究ゼミを通して専門的な問題解決力を高めます。

2. コース別専門科目群

(1) 幼稚園教員養成コース

幼稚園教育は学校教育の始まりととらえ、幼児一人ひとりを理解し、豊かな成長を促す専門性が身につく、「保育の聖徳®」にふさわしい教育課程を編成します。理論、実践科目、附属幼稚園や外部の幼稚園で行う実習を通して、幼児の発達を支え、地域や保護者から信頼される、優れた実践力と教材研究の力を身につけます。

(2) 保育士養成コース

子どもの生活や遊びを豊かにし、その成長を支えるとともに、それぞれの地域社会の特性に応じた子育て支援が可能な専門性を身につける、「保育の聖徳®」にふさわしい教育課程を編成します。授業に加えて、保育所や社会福祉・児童福祉施設（保育所を除く）で行われる実習を通して、子どもの幸せを第一に考え、その福祉を積極的に増進できる確かな実践力を培います。

(3) 小学校教員養成コース

子どもを理解し、保護者に信頼され、地域社会と連携しながら適切に指導できる実践力を身につける教育課程を編成します。英語教育が充実されるのに伴い、1年次から英語を4年間学び実力をつけます。また、4年次には教科等を選択して専門性を深めます。さらに、各教科等の内容と指導方法に加え、附属小学校での観察実習や公立小学校での教育実習を通して、高い授業力と教育課題を解決できる実践力を身につけます。

(4) 特別支援教育コース

通常学級に在籍する子どもを含め障害のある子どもを理解し、保護者に信頼され、地域社会と連携しながら適切に指導・支援ができる専門的な実践力を身につける教育課程を編成します。各種の障害についての理論と指導方法に加え、特別支援学校での実習を通して、高い授業力と教育課題を解決できる実践力を身につけます。

(5) 児童心理コース

子どもの心を多角的にとらえ、成長や発達を支える実践力を身につけるとともに、保育士や教員の資格・免許の取得が可能な教育課程を編成します。心理学を専門的に学び、子どもの心の理解と適切な支援ができる実践力を身につけます（認定心理士取得が可能）。

(6) 児童文化コース

子どもの遊びと文化を学び、地域に貢献できる実践力を身につけるとともに、保育士や教員の資格・免許の取得の可能な教育課程を編成します。音楽・造形・身体などの表現、文化や環境、地域交流などの学習を通して的確な自己表現力で他と協働しながら地域社会で活躍できる専門的な実践力を身につけます。

(7) スポーツ健康コース

子ども達にスポーツの楽しさを伝える実践力を身につけるとともに、資格・免許取得の可能な教育課程を編成します。ジュニア期（幼児期～児童期）の発育発達に応じた運動遊びやスポーツ指導に関する理論や技術を学び、児童期から生涯にわたる健康づくりを通して地域に貢献できる実践力を身につけます。

【教育課程実施の方針】

1. 学生が自ら主体的に学ぶ授業を展開するとともに、学生と教員がともに学び合う「対話の教室」を通して、学修成果の向上を図ります。
2. 学外宿泊研修、卒業研究などにおいてルーブリック評価を導入し、評価結果を教員と学生で共有しながら学びを改善・充実します。
3. 教育実習や保育実習では、本学教員及び附属小学校や附属幼稚園教諭による事前・事後指導を実施し、教育課題に即応できる実践力の向上を図ります。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

児童学部児童学科では、子どもに関わる専門的な実践力をもち、地域社会に貢献できる人材を育成するために、次のような能力をもつ入学者を求めています。

1. 子どもの成長や発達に関心があり、子どもの心に寄り添うことができる人。
2. 自己の人間性や教養を高め、調和ある社会の発展に貢献しようとする人。
3. 心身ともに健全で、子どもや保護者、地域の人などと積極的に交流するとともに、教育実習等を継続できる人。
4. 学業成績が児童学を習得するために必要な水準に達している人。
5. 他と協働しながら問題に取り組むコミュニケーション・スキルをもつ人。
6. 問題に対して資料等を十分に活用しながら解決方法を考えることができる人。

児童学部児童学科では、このような人を受け入れるために多様な受験機会を用意し、様々な入学試験を行っています。こうした試験においては、本学部での学修に必要な学習意欲や基礎的な学力、コミュニケーション力、課題解決力などについて、書類審査、作文や小論文、学力試験、面接などを多面的に組み合わせて総合的に評価します。

心理・福祉学部 心理学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理・福祉学部心理学科は、心理学を基礎から幅広く学び、社会における様々な心の問題に向き合い解決に取り組む力をもつ人材を多く輩出してきました。

現代社会において心理学の知識やスキルが求められるフィールドは拡大し続けており、目の前の課題に対して他者と協働しながら自分自身で考え行動する実践力が本学科の学生に求められています。さらに、国や文化の垣根を超えた支援の力も今後求められます。

そのような社会的要請に応える人材育成のため、心理・福祉学部心理学科では豊かな感性と相互扶助の心を備えた上で、心の働きに関する科学的根拠に基づいた学問知を有するとともに、現実社会の様々な場面において課題を発見・解決するフィールド知を備え、グローバルに活躍できる女性を育成します。このような人材育成のため、本学科では、心理支援専修、産業・社会心理専修、危機管理専修、教育・発達心理専修、家族支援専修の五つの専修を設けます。また、心理支援専修を中心にいくつかの専修を組み合わせることによって、公認心理師資格取得のために大学で必要な科目も履修することができます。本学科は、心の健康や福祉の増進等の社会からの要請に応えることを理念とし、以下の六つの教育目標を設けます。

【教育目標】

1. 心の働きと多様性を学び、人間を複眼的に見ることによって、広い視野を育成する。
2. 心理演習および実習科目を通して、心のケアを必要とする人を支援するための基本的な技能を育成する。
3. 他者と協働するために豊かな感性をもって自分と相手双方に配慮できる対人コミュニケーション能力を育成する。
4. 物事の真意を検証する実証的態度を育成する。
5. 科学的な情報を適切に扱い、自己の考えを明確に説明する情報リテラシーを育成する。
6. 日常生活の中から未解決の課題を発見し、解決策を提案し実行する力を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

【学修成果】

1. 心理学の基礎領域を幅広く学び、人の心の仕組みを科学的に捉えることができる。
2. 実践現場で応用される心理学を学び実際に体験することで、多様な価値観に基づく心の働きや課題に関する知識を獲得し、複眼的に人の心の働きを捉え、心のケアを必要とする人の支援ができる。
3. 他者と協働し課題解決に取り組む中で、コミュニケーション・スキルを活用しチームで働くことができる。
4. 文化的・芸術的な作品を体験するプログラム、語学教育や海外研修といったプログラムを通して、豊かな感性を持ち自国以外の文化や価値観を受け入れ理解しながら活躍

する素養を身につけることができる。

5. 曖昧な心の働きを明確な概念として定義し、他者にも理解できる指標で測定できる。
6. 心理学研究法の知識及びスキルによって、心の働きを科学的に検証することができる。
7. 研究倫理を遵守し適切な手法で心理データを測定・管理し、自分の考えを適切なソフトウェアや機器を活用しながら他者にプレゼンテーションすることができる。
8. 大学内で学んだことを活かし、フィールドワークにおいて自治体や企業における心理的課題を見出すことができる。
9. 発見した課題に対して、自身の学びや他者との連携に基づいて解決策を提案し実行することができる。

上記の学修成果に基づく教育課程において所定の単位を修得した人に学士（心理学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

心理・福祉学部心理学科では、学修成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を、以下の方針に基づいて編成しています。

本学科では、学科の教育目標を達成するために五つの専修を設け、専門性の高い実践力を育成する教育課程を編成しています。その編成は次の基本方針に基づいています。

1. 人間の心の仕組みについて理解を深める科目群を設定し、実践を通して、多様で複眼的な視点から身近な現象を科学的に説明できる学術的な基礎力を育成します。

心理支援専修では、心理支援に必要な専門的知識や技能を実践的に学び、心の問題を抱える人に対して心理的援助のできる基礎的技能を育みます。

産業・社会心理専修では、企業の広告や商品開発に必要な消費者心理などを学び、マーケティング・リサーチ技術の力を育みます。

危機管理専修では、事故や災害、ストレスなど、傷ついた心の回復を助ける応急処置や、ストレス・マネジメントに関する専門性を育みます。

教育・発達心理専修では、学校や福祉施設など、子どものそばで心の支援ができる力を育成します。

家族支援専修では、子どもから高齢者まで様々な世代を支える家族支援のできる専門性を育みます。

2. 心理支援専修に加えて、いくつかの専修を組み合わせる学び、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働などの分野の施設において実習を行い、チームアプローチ、多職種連携および地域連携、職業倫理について理解し、心の問題を抱える人たちを支援することのできる実践力を育成します。

3. コミュニケーション・スキルおよびチームワーク力を高める科目群を設定し、「心理学基礎講座」を中核として自分の考えを伝え、他者の話に耳を傾け、互いを大切にしつつグローバルな社会で豊かな感性を持って共に生きる力を育みます。

4. 物事の真意を検証するスキルを磨く科目群を設定し、「心理学実験実習Ⅰ・Ⅱ」を中核として、曖昧な「心の働き」を科学的に捉える力を育成します。
5. 科学研究を行うための基礎力を高める科目群を設定し、「心理学演習」を中核として心理学研究に取り組むために必要な情報検索力、情報整理力、論理的思考力などの情報リテラシーを育成します。
6. 社会の中で課題を発見し解決する科目群を設定し、「フィールド学習」を中核として、心理学の理論を活かし他者と連携しながら環境を動かす実践力を育成します。

【教育課程実施の方針】

心理・福祉学部心理学科では、学修成果を効果的に達成するために、授業計画に以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 一年次は心理学の基礎を学び、二年次以降は学生の興味関心に対応した学びの専門性を深めるため、特色のある五つの専修から複数の専修を組み合わせて学んでいきます。
2. 授業方法として大学内での専門的な講義や実習、演習とともに、社会現場におけるフィールドワーク学習と心理演習および実習を導入し、実践的な心理学の学びを促進しています。
3. 社会で心理学スキルを活用するために、さまざまな課題発見や解決を実践に移す方法を、専門性を深めながら繰り返し段階的に学んでゆきます。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理・福祉学部心理学科は、フィールドにおける実地体験を通して実践的な心理学を学ぶことができる、という他大学には見られない特質を活かして、ディプロマ・ポリシーでも挙げた「豊かな感性と人間の心の仕組みに関する学問知を有し、課題を発見・解決するフィールド知とコミュニケーション能力を備えた人材」を育成するために、以下の資質を持った入学者を求めています。

1. 心理学を幅広く学ぶための基礎的学力を有している人。
2. 心のメカニズムを解明するための論理的思考能力と情報処理技能をもっている人。
3. 実習や理論学習などの授業に主体的、協働的に取り組むことができる人。
4. 大学院進学も視野にいれ、臨床心理士や公認心理師資格取得を目指し、心理支援の専門家になって社会に貢献したい人。

心理・福祉学部心理学科ではこのような人を受け入れるために、多くの受験機会を設け、多種類の入学試験を行っています。こうした試験を通して、本学科では、学びに必要な基礎的な文章読解力や表現力、情報を収集したり活用したりする技能、独自性のある自己表現と周囲との協働力などについて、書類審査（調査書、推薦書など）、学力試験、小論文、作文、面接などによって多面的・総合的に評価します。

心理・福祉学部 社会福祉学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理・福祉学部社会福祉学科では、現代社会の福祉・教育問題の解決に必要な専門的知識と高度な技術を取得し、福祉・教育分野で活躍する人材の養成を目的として社会福祉コース、介護福祉コース、養護教諭コースの三コースを設け、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、養護教諭、保育士などとして活躍する人材を社会に輩出してきました。

現在我が国は少子高齢化、グローバル化(地球規模化)が進行する中で福祉・教育ニーズが複雑化・多様化しています。このような複雑化・多様化する福祉・教育ニーズに対応するためには個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本として、社会と個人の生活のかかわりについて深く洞察し、福祉社会づくりに寄与できる幅広い知識・能力、感性を持った専門職の養成が求められています。心理・福祉学部社会福祉学科では、このような社会の要請に応えるため、個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本として、女性の立場から生活の視点を持ち、それを福祉・教育分野で活躍する専門職の養成を目指し、福祉社会づくりに貢献します。

以上の教育理念を具現化するために、以下の教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、人々の生活を支援することができる人間力を備えた人材を育成する。
2. 社会福祉学の専門的知識・技術・態度を身につけ、それに基づいた判断力と課題解決力をもった人材を育成する。
3. 人々の個別の福祉・教育ニーズに応じたサービスを提供することができる実践力を備えた人材を育成する。
4. 保健・医療など他業種と連携を図りながら、福祉社会づくりに貢献できる人材を育成する。

上記の学科共通の教育目標をもとに、各コースに次のような具体的目標を設定します

- (1) 社会福祉コースでは、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、生活の総合相談ができる能力をもったソーシャルワーカーを育成する。
- (2) 介護福祉コースでは、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、高齢者・障害者など介護を必要とする人びとの介護福祉の実践ができる介護福祉士を育成する。
- (3) 養護教諭コースでは、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、子どもの心身の発達・成長の支援と生涯にわたる健康づくりに貢献できる養護教諭を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

【学修成果】

1. 確かな人間性を有し福祉・教育の実践者としての資質を兼ね備えている。
2. 社会福祉学の専門的な理論・知識・態度を習得し、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら福祉・教育課題を探究し課題解決策を提示することができる。
3. 福祉・教育の実践場面で女性の立場から生活の視点を持ち、個々人の福祉・教育ニーズに応じたサービス提供を実践することができる。
4. 他業種間の連携を図り、地域社会づくりや福祉社会づくりなど社会貢献ができる。

以上のような学修成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に学士（社会福祉学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

心理・福祉学部社会福祉学科は、学修成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 社会福祉分野の基礎となる個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本とした専門基礎科目群を設定し、福祉・教育の実践に必要な基礎的能力を養成します。
2. 社会福祉分野の専門的知識・技術・態度を高めるための科目群を設定し、現代的課題に対応した判断力や課題解決力を育成します。そこで学習した内容をもとに演習科目や実習科目を配置し、福祉・教育の実践場面で女性の立場から生活の視点を持ち、課題解決に向けた実践力を育成します。
3. 福祉・教育の課題解決のための科目群を設定し、専門職業人として自立し、卒業後の各種福祉現場、学校、地域社会で他職種との連携の下、幅広く活躍できる専門性の高い資質・能力を育成します。

【教育課程実施の方針】

心理・福祉学部社会福祉学科では、学生自ら課題を発見し解決するという主体的、創造的な方法で教育課程を実施します。また、福祉的な問題を科学的に理解するための文献やデータを収集分析し、少人数で討論するなどの演習形式の授業やフィールドワークやインタビューを行うなど、問題発見・解決型学習（Problem-Based Learning）を取り入れながら実施します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

現代社会の福祉ニーズに対応するための人材育成が急務となっています。心理・福祉学部社会福祉学科では、それに応えるため個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本として「一人ひとり」を支え、守り、育てる福祉・教育の専門職の養成を目指しています。

こうした目的を理解し、目的を達成できる資質を持った人を心理・福祉学部社会福祉学科では求めています。具体的には、次のような入学者を求めています。

1. 主体的に福祉・教育を学習する意欲があり、授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことができる人。
2. 社会福祉の基礎的・基本的な知識・技能を習得しようと考えている人。
3. 現代社会の課題に関心を持ち社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、養護教諭、保育士など福祉・教育の専門家として社会に貢献する夢を持っている人。

心理・福祉学部社会福祉学科では、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での修学に必要な基礎学力、知識、技術、コミュニケーション力、他者と協働する能力などについて、書類審査、学力試験、小論文、作文、面接などを組み合わせて多面的・総合的に評価します。

文学部 文学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部文学科は、特色ある複数学科を統合し、2013年に新たな学部として誕生しました。いつの時代においても普遍的な理念である聖徳太子の「和」の精神を建学理念とする女性総合大学の文学部として、円満な人格を備えた社会人・家庭人としての良き女性の育成を教育の根幹としています。したがって、文学部文学科は心豊かな人間性、その表象となる気品、幅広い教養と人文科学に関する各領域の専門性を育むことに重きを置く教育を行っています。

一方、現代社会は多くの問題を抱えています。それらは既成の知や技術のみによって解決を図ることは難しく、なによりも人間性への深い洞察に基づいた多文化社会に関する広い視野と優れた識見を必要としています。

文学部文学科は、そのような現代社会の要請にも応え、人文科学に関する専門領域別に、英語・英文学コース、日本語・日本文学コース、歴史文化コース、書道文化コース、図書館情報コース、教養デザインコースの六コースを設け、専門性の高い人材育成を行っています。そして、さまざまな時代・地域の文学・文化・芸術に関する幅広く奥行きのある教養に基づき、時代や地域を超えて多様な他者の価値観を理解できる柔軟な思考力、社会の各領域において輝き続ける行動力を備えた人材を育成し、多くの問題を抱えた社会に広く貢献していきます。

以上の理念を具現化していくために、以下の三つの教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 伝統の本物教育を重視し、女性としての心豊かな教養と日本社会の気品の模範としての礼法を備えた人材を育成する。
2. 現代社会を生きるための総合的な人間力を備えた人材を育成する。
3. 文学・文化・芸術に関する各学問領域の専門的な知識を有し、自らの考えを適切に表現できる社会的・職業的に自立した人材を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

【学修成果】

1. 伝統の本物教育により女性としての心豊かな教養を養い、及び日本社会の気品の模範としての礼法を身につけ、実践できる。
2. グローバル社会を生きるための英語コミュニケーション力をも有した総合的な人間力を身につけ、実践できる。
3. 文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる。

文学部文学科では、以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

文学部文学科では、学修成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 学部共通科目

伝統の本物教育を具現化し、体験型・参加型教育を重視した科目を設置しており、それらの科目をRE(Reality Experience)科目と名付けています。RE科目の他、ゼミ、キャリア論、コミュニケーション技法を学部共通科目として設定することにより、学生自らが課題を発見し自ら主体的に学修成果を高め、課題探求力を身につけます。

2. コース別専門科目群

（1）英語・英文学コース

英米の文学・文化・言語を学び、英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）の力を着実に身につける教育課程を編成しています。

（2）日本語・日本文学コース

日本語を専門的に学ぶことによって、日本語の基本的な運用能力を養い、日本の文学作品の鑑賞・批評・創作を通した自己表現力を育成する教育課程を編成しています。

（3）歴史文化コース

歴史学・考古学・民俗学・美術史学の知識と専門理論を学び、歴史的に形成された現代社会の課題に多面的に取り組む力を育成する教育課程を編成しています。

（4）書道文化コース

書道学を学ぶことによって、書の実相を理論と実技を通して理解し、書の真髄を見極め作品を創作する力を育成する教育課程を編成しています。

（5）図書館情報コース

図書館情報学を学ぶことによって、図書館の機能と情報資源の多様性を理解し、情報技術を身につけて、現代図書館を運営する力を育成する教育課程を編成しています。

（6）教養デザインコース

人文科学としての教養力の基盤の上に、相手志向で思いやるホスピタリティ力と、人・組織・会社・世界と円滑な関係を築き上げるコミュニケーション力を養い、実社会における総合的な人間力を育成する教育課程を編成しています。

【教育課程実施の方針】

文学部文学科では、全学共通科目と専門教育科目の教育課程を編成し、学修成果を効果的に達成するために、以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 伝統の本物教育を具現化し、体験型・参加型教育を重視した特別授業を開講し、学生自らが課題を発見し自ら主体的に学修成果を高める方法を重要視しています。それらの科目をRE(Reality Experience)科目と名付けています。
2. 文学・文化・芸術に関する各学問領域の専門科目では、作品・学習対象の鑑賞・批評・創作をチームによるアクティブ・ラーニングやプロジェクト学習等を活用し実施しています。
3. キャリア科目におけるインターンシップやフィールドワークをはじめ、実習など、現地現物主義によって実践的な能力を身につけられるよう実施しています。

入学受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学部文学科は、建学の理念である「和」の精神を理解し、文学・文化・芸術に関する学問領域に興味を持ち、将来、心豊かな教養と気品を持った女性として、社会の各分野で活躍したいという基本的資質をもった人を求めています。具体的には以下のような入学者を求めています。

1. 心豊かな女性として、気品ある行動を大切にできる人。
2. 協調性、誠実性、自主性を備え、自分の考えや気持ちを表現するなど、多様な人々と協働する意欲がある人。
3. 文学・文化・芸術に関する特定のテーマを掘り下げ深く学ぼうとする意欲がある人。
4. 高等学校等での学びを通して、文学部文学科での学修に必要な知識、技能、思考力、学ぶ力を身につけている人。

文学部文学科では、このような人を受け入れるために多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学修に必要な知識、技能、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、書類審査（調査書、推薦書など）、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

人間栄養学部 人間栄養学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人間栄養学部人間栄養学科は、人間の身体と心と社会的存在という三つの側面を支える食生活を健全に保つための人間栄養学を教授し、豊かな人間性と実践力をかね備えた、科学的根拠に基づいた「栄養の指導」を実践できる管理栄養士を養成してきました。

現代社会は、少子高齢化や疾病構造の変化が進む中で、国民の健康の維持・増進、生活習慣病の発症及び重症化の予防に重点を置いた対策が推進され、健康寿命の延伸と健康格差の縮小に貢献する人材の育成が求められています。

このような社会の要請に応えるため、人間栄養学科は、保健・医療・福祉・産業・教育の分野において個人並びに集団に対する食事管理、栄養教育、栄養管理を実践する能力を備えた「人に頼られ、喜ばれ、愛される管理栄養士」を育成し、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現に貢献しています。

以上の理念を具現化するために、以下の四つの教育目標を設定します。

【教育目標】

1. 管理栄養士としての専門職業人の自覚と使命感、並びに他者を思いやる人間性を育成する。
2. 食生活上の課題や問題の本質を洞察し、適切な解決策を提案できる創造的思考力と、問題解決に向けた行動をとる実践力を育成する。
3. 管理栄養士に必要な知識と技能を修得し、それに基づいた適切な「栄養の指導」を行うことができる能力を育成する。
4. グローバルな視野を備え、自らの意思で実践活動を起こすことができる高い実践力を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下の学修成果を設定します。

【学修成果】

1. 管理栄養士としての自覚と誇り、並びに使命感をもち、他者と連携、協調して責任ある行動をすることができる。
2. 自己を客観的に分析・表現し、自己成長の素となる持続的、自律的な学びをデザインすることができる。
3. 食生活上の課題や問題を数理的・論理的に考察することができ、アイデアや洞察力を生かし、多面的に問題にアプローチすることができる。
4. 目的に応じた食事を設計し、幼児から高齢者までのすべての人から喜ばれる食事を提供するとともに、健康の維持・増進、疾病の予防・治療に貢献することができる。
5. 人間栄養学に関する科学的根拠を理解し、その根拠に基づいた実践活動ができるとともに、その根拠を構築するための研究計画を提案することができる。
6. グローバル社会が求める人間栄養学を理解する論理的並びに創造的思考力が身につけており、多様な実践活動に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、学士（栄養学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

人間栄養学科では、学修成果を体系的に達成するために、建学の精神「和」に基づいた本学独自の人間教育等を目的とする全学共通科目と専門教育科目の教育課程を以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

1. 学びの基礎力を身につける「人間栄養学基礎分野科目」を設定し、全学共通科目の学修と共に、管理栄養士としての専門職業人意識と基礎力を育成します。
2. 専門教育科目群には多くの実習・演習科目を設け、情報活用力、生涯学習力、問題解決能力を涵養し、問題解決に向けた行動をとる実践力を育成します。
3. 管理栄養士指定科目の他、人間栄養学調理実習を設定し、適切な「栄養の指導」を実践現場で行うことができる知識と技能を育てます。
4. 多種多様な資格免許取得のための科目群を専門選択科目として設け、社会が求める多様な分野の知識・能力並びに実践力を育てます。

【教育課程実施の方針】

人間栄養学科では、学修成果を効果的に達成するために、授業計画（シラバス）に以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 専門教育科目群は、「食品と調理」を学ぶ科目群と、「栄養・代謝と疾患」を学ぶ科目群、「社会と健康」を学ぶ科目群に分けて、授業科目の関連がわかるように配慮し学習の成果を高めています。
2. すべての授業、実習において、授業方法としてアクティブ・ラーニングを導入し、セルフ・アセスメントに基づいた自律的な学びを促進しています。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人間栄養学科は、建学の精神「和」を尊ぶ人間性教育の環境のもと、食生活上の課題や問題の本質を洞察する力、並びに創造的思考力と実践力、自律力を身につけ、科学的根拠に基づいた「栄養の指導」を実践できる管理栄養士を目指す基本的な資質を持った人を求めています。具体的には次のような入学者を求めています。

1. 食と健康に強い関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献したいという強い意欲と決意を持っている人。
2. 自然科学が好きで、科学的なものの考え方ができる基本的な能力を身につけている人。
3. 知的好奇心に満ち溢れ、常に向上心をもって努力できる人。
4. 明朗活発で人との交流を大切にし、人間性豊かで、礼節を重んじる人。

人間栄養学科では、このような人を受け入れるために、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学修に必要な科学的な知識・技能、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、書類審査（調査書、推薦書など）、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

看護学部 看護学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学部看護学科は、本学の理念である「確かな人間性と洞察力を備えた専門性の高い実践力を有する自立した女性の育成」のもと、保健医療分野における人材育成を目的に、2014年に設置されました。今日の急速な高齢化、医療の高度化は保健医療従事者に、専門的知識・技術と多様な価値観を尊重する豊かな人間性を求めています。看護学部看護学科では、本学の人間教育に基づき、自らを律し、チームの中で主体的に考えながら実践できる、凛とした看護専門職者を育成し、地域社会へ貢献します。

看護学部看護学科は、教育理念に基づいて、以下の三つの教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 高い人間的資質と倫理性を備え、高度な医療と地域の看護に従事できる凛とした専門職女性を育成する。
2. 地域医療体制の向上に寄与する。
3. 医療・健康・福祉に貢献できる実践的な教育研究を推進する。

看護学部看護学科では、教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

【学修成果】

1. 豊かな人間性を有し、看護職者に必要な品性を備えている。
2. 看護実践に必要な専門的知識・技術を修得し、それに基づいた判断力と課題解決力を有し、対話による合意形成を行うことができる。
3. 保健・医療・福祉・教育などの他職種との連携を図り、いつでも・どこでも・誰にでも必要とされるケアが提供できる。
4. 地域の特性と健康課題を探究し、実践できる。

看護学部看護学科では、以上の教育目標・学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

看護学部看護学科は、学部の教育目標を達成するために、以下の基本方針に基づいて教育課程を編成しています。

1. 四年間の教育を通じて看護職者に必要な基礎的能力から看護実践に必要な総合的かつ専門的な知識と技能が修得できる教育課程を編成します。
2. 学生一人ひとりが人間的に成長すると同時に、看護に求められる豊かな人間性と問題解決力の基本を育成する全学共通並びに学部共通の科目群を配置します。
3. 高度な医療と地域の看護に従事できる実践力を育成する看護学領域の科目群を配置します。
具体的には、
 1. 全学共通科目群を設定し、聖徳教育、英語の科目を中核として、学生一人ひとりの人間的な成長と同時に、看護に求められる豊かな人間性と問題解決の基礎力を育成します。
 2. 専門基礎科目群を設定し、解剖生理学、病態生理学の科目を中核として、看護職者に必要な

基礎的能力を育成します。

3. 専門科目群を設置し、各看護学領域の看護学概論・援助論の科目を中核として、看護実践に必要な総合的かつ専門的な知識・技術・態度を育成します。演習・実習科目を多く設置し、看護の実際の場面における課題解決を通して実践力を育成します。

【教育課程実施の方針】

看護学部看護学科では、教育目標を効果的に達成するために、授業計画（シラバス）に以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 授業方法としてアクティブ・ラーニングを導入し、深い学びを促進しています。
2. 医療現場を再現して実践力を養うシミュレーション・トレーニングを導入しています。
3. 機能の異なる実習病院・施設において、人の発達段階に応じた急性期・慢性期・終末期医療及び看護が学べるようにしています。

入学受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

看護学部看護学科は、本学の人間教育の実績を活かして、保健医療分野に貢献できる看護専門職者を育成するために次のような能力を育成する教育目標を掲げています。

1. 豊かな人間性と看護職者に必要な品性
2. 看護実践に必要な専門的知識・技術
3. 判断力、課題解決力、対話による合意形成力
4. 他職種と連携を図る能力
5. 健康課題を探究し、実践できる能力

看護学部看護学科では、上記の能力を獲得できる資質をもった人を求めています。具体的には次のような入学者を求めています。

1. 看護への意欲をもつ人
 - (1) 看護に関心があり、保健・医療・福祉分野に貢献したい人
 - (2) 地域の健康問題に関心のある人
2. 人間性豊かなコミュニケーションを大切にする人
 - (1) 生命の大切さ、人間の尊厳を理解できる人
 - (2) 他者への思いやりがあり、人間の弱さを共感的に理解できる人
 - (3) 他者の言葉に耳を傾け、気配りが行き届く優しい関係を築ける人
 - (4) 外国人と会話できる英語力の基礎を有する人
3. 数理的課題を解決する基礎力をもつ人
 - (1) 的確な文章読解力と判断力をもった人
 - (2) 数理的な課題を解決する基礎力をもった人

入学試験においては、本学部での学修に必要な看護への意欲、人間性豊かなコミュニケーション力、課題解決の基礎力について、書類審査（調査書、推薦書など）、学力試験、面接などを組み合わせて多面的かつ総合的に評価します。

音楽学部 音楽学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

音楽学部にあつては、これまでにすぐれた音楽家や質の高い音楽教員、音楽療法士、音楽指導員など音楽にかかわる専門的職業人を中心とした多くの人材を輩出し、音楽文化の発展に寄与してきました。

音楽は社会や人々をつなぎ生活を豊かにする重要な文化であり、その発展に貢献できる人材の育成に社会の期待が寄せられています。音楽学科では、総合大学の中にある音楽学部音楽学科という他にはない学科の特質を活かし、優れた感性と表現能力をもち音楽文化の発展に貢献できる音楽家や、音楽を広く総合的視野からとらえ専門的職業人に必要な理論と能力、人間力をもった音楽教員などの指導者、音楽療法士、音楽関連企業人の育成を目指し、次のような目標を掲げ教育を行います。

【教育目標】

1. 音楽や音楽キャリアに関わる豊かで専門的な知識や技能を身につけた人材の育成。
2. 自己の音楽的課題を明確にし、主体的、創造的、協働的に学ぶことができる人材の育成。
3. 音楽家や音楽教育者、音楽療法士、音楽関連企業人などの専門的職業人を目指し生涯にわたって学び続ける使命感、責任感を有した人材の育成。
4. 社会を生きる総合的な人間力を備えている人材の育成。

こうした教育目標に基づき、以下のような学修成果を設定します。

【学修成果】

1. 豊かな音楽表現力や音楽キャリアに関わる専門的能力をもつことができる。
2. 主体的、創造的、協働的に学ぶことができる。
3. 専門的職業人としての使命感、責任感をもちつことができる。
4. 音楽活動に関する英語コミュニケーション力をも有した総合的な人間力をもつことができる。

以上のような学修成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に学士（音楽）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）**【教育課程編成の方針】**

学位授与の方針に則して、音楽学部音楽学科においては、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果の達成のために次の科目群を設定します。

1. 専門的な知識、理論、技能を高める科目群や音楽キャリアにかかわる科目群
2. 主体的、創造的、協働的に学ぶ科目群
3. 専門的職業人としての使命感、責任感を高める科目群
4. 人間力を高める科目群

これらの科目群に沿って配置された次のような授業により教育課程を編成し、学修成果

及び教育目標を達成します。

1. 音楽専門実技や理論、音楽教育関連科目、音楽療法関連科目を学修することにより、自らの目指す音楽キャリアに関する専門的な能力を身につける。
2. 音楽の専門実技及び演習、音楽教育、音楽療法にかかわる演習・実技関連科目の学修を通して、主体的、創造的、協働的に学ぶ力を身につける。
3. 学内発表、卒業研究、教育実習、音楽療法実習、インターシップなどの学修を通して、専門的職業人としての使命感、責任感を身につける。
4. 聖徳教育科目、教養科目、外国語科目、健康教育科目、情報活用科目、及び音楽キャリア教育関連科目の学修を通して、社会を生きる総合的な人間力を養う。

専門科目を中心としたこれらの教育課程は、初年次教育、教養教育、キャリア教育とも密接な関係をもって編成されます。人間力の基礎ともなる学外研修を含んだ「聖徳教育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を中心とした初年次教育や教養教育の学修、コミュニケーション力を養う英語や演奏に必要なイタリア語等の外国語の学修、専門的職業人へ向けた使命感形成の基礎となる音楽キャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲを中心とした音楽キャリア教育関連科目等が音楽専門科目と緊密な関係を持ちつつ編成されます。

【教育課程実施の方針】

教育課程については、自ら課題を発見し解決を図るという主体的、創造的な方法で実施します。また、演奏や舞台を協働してつくるチーム基盤的な学習などのアクティブ・ラーニング的手法も取り入れながら教育課程を実施します。

入学受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

音楽が社会や人をつなぐ豊かな絆であるということが再認識されています。音楽学部音楽学科では、そうした音楽の発展に音楽家として貢献できる人材を育成しています。そのような人材に必要な力はディプロマ・ポリシーで示しています。

こうした目的を理解し、目的を達成できる資質をもった人を音楽学部音楽学科では求めています。具体的には、次のような入学者を求めています。

1. 音楽が好きで、音楽家、音楽教員や音楽療法士、音楽関連企業人として社会に貢献する夢をもっている人。
2. 音楽実技や理論など音楽に関する授業や音楽キャリアに関する授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことのできる人。
3. 学内外での音楽活動や実習などで必要となるコミュニケーション力など基礎的な力をもっている人。

音楽学部音楽学科では、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学修に必要な音楽的な知識、技能、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的に考え表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、実技試験、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

聖徳大学短期大学部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

聖徳大学短期大学部は、1933年に創立された東京聖徳学園の建学の精神である「和」を教育理念としています。本学は、この理念を社会に創造的に活かしながら、常に新しい教育に挑戦するとともに、時代を超えて求められる多様な他者への尊敬と共感を大切にする人間性を備えた女性を様々な世界に輩出しています。

現代社会は、政治・経済・文化のグローバル化が進み、個人・社会の価値観が多様化・複雑化し、きわめて多くの複合的な問題に直面しています。このような変化の激しい社会において、人間の尊厳を見失わず、自ら新たな問いを立て多様な他者と協働しながら新たな価値を生むための力の育成が求められています。

聖徳大学短期大学部は、時代をリードする教育改革を進め、互いの価値観を共感的に受け止める確かな人間性、グローバルかつローカルな視点と学際的な洞察力、社会で発揮できる専門性の高い実践力をもつ人を着実に育成し、調和ある社会の発展に貢献しています。

聖徳大学短期大学部は、上記の教育理念に基づいて、以下の四つの教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 他者を思いやる協調性ととともに、凜として生き抜いていくための確かな人間性を育成する。
2. 自己分析力、論理的思考力、自己管理能力を活かし、個別学問領域を超えたアイデアや洞察力と多面的な問題発見・解決力を育成する。
3. 専門分野に関する理論・知識・技能を修得し、理論と実践を結びつけて社会で発揮できる専門性の高い実践力を育成する。
4. グローバルな視野を備え地域で活躍できる専門性の高い実践力を発揮して、自分なりの価値を見だし、自らの意思で一步を踏み出すことのできる女性を育成する。

聖徳大学短期大学部では、こうした教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

【学修成果】

1. 一流の文化・芸術がもつ普遍性と固有性を感受し、グローバルで多様な価値を受け止めることができる。
2. 思いやりと慎みの心をもって相手の立場に立ち、集団の中で自立した行動をとることができる。
3. 自己や事象を客観的かつ論理的に考察することができ、自己の生き方をデザインすることができる。
4. 個別学問領域を超えたアイデアや洞察力を活かし、自己の確立を図ることができる。
5. 専門分野に関する知識・技能を体系的に学び、理論と実践を結びつけて主体的に課題を解決することができる。
6. 専門領域に関わる理論と知識と技能を結びつけて、グローバルかつローカルな視点をも

って、多様な実際的かつ実践的な問題や課題に主体的に、かつ協働して取り組むことができる。

聖徳大学短期大学部では、以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

聖徳大学短期大学部では、学修成果を体系的に達成するために、全学共通科目と専門教育科目の教育課程を以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

I 全学共通科目

全学共通科目は、「聖徳教育科目」、「教養科目」、「外国語科目」等から構成しています。

「聖徳教育科目」は「小笠原流礼法基礎講座」と「聖徳教育」から編成し、聖徳学園の建学の精神「和」に基づいた本学独自の人間教育を目的とし、確かな人間性を育成します。

「教養科目」は、文化、社会、自然、身体・精神などに関わるグローバルかつ複合的な諸現象や多様な問題状況に向き合い、個別学問領域を超えたアイディアや学際的かつ多面的な洞察力と学術を総合した問題解決力を育成します。

「外国語科目」等は外国語および的確な情報によるコミュニケーション・スキルを育成し、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力を育成します。

II 専門教育科目

学科の教育目的を達成するために専門性の高い実践力を育成する教育課程を編成しています。その編成は次の基本方針に基づいています。

1. 学科の専門性を習得するために不可欠な学術的な基礎力を育成します。
2. 現代的課題に対応した専門的理論と知識を学び、問題・課題解決のための基礎力を育成します。
3. 充実した演習・実習科目を設定し、実際場面における問題・課題解決を通して実践力を育成します。
4. 専門職業人として自立し、優れた感性と表現力、柔軟な思考力と行動力を備え、卒業後の現場で生きる専門性の高い資質・能力を育成します。

【教育課程実施の方針】

全学科において、全学共通科目と専門教育科目の学修成果を効果的に達成するために、授業計画（シラバス）を作成して以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 「到達目標」、「学修成果」、「評価の要点」を明示し、実施しています。
2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び他の授業科目との関連を明示しています。
3. 授業方法として能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を導入し、深い学びを促進しています。

4. 毎時間の「身につく資質・能力」と「予習・復習」時間を明記し、その実施を促進しています。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

聖徳大学短期大学部は、総合大学という特質を活かして、変化の激しい社会を生き抜いていくための確かな人間性、どのような社会であっても不可欠な自己分析力、論理的思考力、自己管理能力、個別学問領域を超えたアイデアや洞察力と多面的な問題発見・解決力、そしてそれらを発揮して主体的にかつ協働して課題に取り組める、社会で発揮できる聖徳ならではの専門性の高い実践力をもつ人の育成を目指しています。

聖徳大学短期大学部はこうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。具体的には、次のような人を求めています。

1. 学びを通して、自己の成長を実現したいという強い意欲をもっている人。
2. 学びを通して、社会に貢献する夢をもっている人。
3. 学内外で必要なコミュニケーション力などの基礎を備えている人。
4. 授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことができる人。

聖徳大学短期大学部ではこのような人を受け入れるために、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、各学科での学習に必要な技能、知識、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、書類審査（調査書、推薦書など）、実技試験、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

保育科 第一部・第二部**卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

聖徳大学短期大学部保育科は、理論と技術を兼ね備え、実践力に優れた多くの保育者を社会に輩出してきました。現代社会においては、個人・社会の価値観の多様化が進み、子どもを取り巻く環境も大きく変化し、保育現場では、これまで以上に質の高い教育・保育と、地域の課題解決に積極的に取り組める人材が求められています。

保育科では、現代社会の問題・課題にも対応できるよう、社会人として、保育者として、礼節、豊かな人間性、高度な専門的知識・技能を身につけ、子どもの教育・保育に関わる専門家としての情熱や使命感をもった保育者「次代をつくる“保育のエキスパート”」を養成します。

【教育目標】

保育科は、上記の教育方針に基づいて、以下の三つの教育目標を掲げます。

1. 礼節と思いやりの心、豊かな人間性、保育者としての使命感や責任感を育成する。
2. 保育実践に必要な論理的思考力、判断力、表現力、他者と連携・協働する力等、理論と実践力を育成する。
3. 子育ての支援を通じて、地域に貢献できる力を育成する。

【学修成果】

保育科では、上記の教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

1. 他者を尊重し、保育に関わる人たちと良好な人間関係を構築することができる。
2. 保育者の職務内容を理解し、使命感、責任感をもって保育に取り組むことができる。
3. 子どもの遊びや生活、発達について理解し、さらに、保育者に求められる表現・技能等を修得して、一人ひとりの子どもに適切な援助をすることができる。
4. 子どもの発達や実態を踏まえて指導案を作成、実践し、その振り返りと改善ができる。
5. 他者と協働して地域の保育課題に取り組み、提案、発信ができる。

保育科では、以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、短期大学士（保育）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）**【教育課程編成の方針】**

保育科では、学修成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 子どもを理解する力を育成する科目群を設定し、教育・保育・心理・福祉・保健等の学修を通じて、子どもを広く理解し、その成長発達について考察する力を育成する。
2. 表現技能を育成する科目群を設定し、感性を磨き、豊かに表現する力を高め、保育実

践力を育成する。

3. 保育を創造する力を育成する科目群を設定し、保育の内容への理解を深め、指導力を育成する。
4. 保育現場で学ぶ科目群を設定し、実習指導や実習を通じて、子どもを真に理解しようとする姿勢と保育実践力、対人関係能力を育成する。
5. 地域で学ぶ科目群を設定し、フィールドワーク等を通じて、保育者として地域の保育課題に取り組む姿勢を育成する。

【教育課程実施の方針】

保育科では、学修成果を効果的に達成するために、以下の教育課程実施の方針を示し、学生が自らの長所を発見し伸長できる学修を展開しています。

1. 実習指導、地域で学ぶ科目等において自己評価を導入し、学生が自らの達成度を確認し、それを教員と共有し、以後の学修に活かすことにより、学修効果を高める。
2. 地域で学ぶ科目群においては、地域社会におけるフィールドワークを実施し、学生が主体的・体験的に学修することにより、実践的な学びを促進する。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

保育科では、豊かな人間性を備えた保育者、理論と実践力を備えた保育者、地域に貢献できる保育者を養成することを教育目標として掲げ、教育目標の達成のために、充実した教育課程を編成しています。保育科の教育目標を理解し、カリキュラムの学習に積極的に臨む人を、受け入れます。

具体的には、次のような知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力や、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度、明確な目標をもつ人を求めています。

1. 教育、保育、福祉に関心をもち、保育者になる意欲がある。
2. 子どもや子どもを取り巻く環境に関心をもち、自分の考えを述べることができる。
3. 文章を理解し、考え、それをまとめる力を身につけている。
4. 身体表現、造形表現、音楽表現等の活動を積極的に楽しむことができる。
5. グループ学習、課外活動やボランティア活動等で、仲間と協働して学習ができる。

このような受験生を受け入れるために、多様な受験機会をもち、入学試験では、個別面接、書類審査（調査書、推薦書など）、学力試験などを組み合わせて総合的に評価します。

総合文化学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

聖徳大学短期大学部総合文化学科は、「専門的知識と技能とを身につけ、広い視野を持って社会に自立できる女性の育成」を教育理念とし、この理念を社会に創造的に活かしながら、常に新しい教育に挑戦し、時代に求められる自立した女性を輩出してきました。

政治・経済・文化のグローバル化、社会の価値観の多様化が急速に進む現代社会は、多くの多面的・複合的な問題に直面しています。そうした中で求められているのは、自ら課題を設定して解決策を示し、多様な他者と協働して新たな価値を創出できる人材を育成することです。

総合文化学科は、フードマネジメント、図書館司書・IT、国際観光・ホテル、ファッション・造形デザインの四つのコースを設け、自己の生き方を考える力や課題解決力をもち、地域社会を漸進的に変えていく実践的な力を有する女性を育成し、調和ある社会の発展に貢献していきます。

【教育目標】

総合文化学科は、教育理念に基づいて以下の四つの教育目標を掲げます。

1. 他者を思いやる協調性と豊かな感性、確かな礼節を身につけた“和”の心を育成する。
2. 幅広い教養に基づく多様な視点から現代社会における課題に自らアプローチし、解決する方策を論理的に模索できる思考力と解決力を育成する。
3. 自己の生き方を主体的にデザインすることができる自立した女性を育成する。
4. 幅広い専門性と学際性を併せもつ体系的な知識・技能を修得し、理論と実践を結びつけて現代社会及び地域社会の課題を解決へと導く高度な実践力を育成する。

【学修成果】

総合文化学科は、教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

1. 思いやりと礼節心をもって他者と関わり、円滑な人間関係を形成することができる。
2. 幅広い教養に基づいた多様な視点から物事を考えるとともに、実社会で必要とされる基礎的な英語によるコミュニケーションとプレゼンテーションができる。
3. 自己を客観的に分析・表現し、かつ自己の生き方を省察してデザインすることができる。
4. 専門分野及び専門分野を越えた学際的な知識・技能、ICTの活用を通じて多面的・複合的な社会問題や地域の課題を思考・実践し解決することができる。

以上の学修成果を達成するために編成された各専門分野別の教育課程において所定の単位を修得した人に卒業を認定し、短期大学士（フード・健康教育、教養・情報、生活デザイン、ファッション・デザイン）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

総合文化学科では、学修成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら実践力を育む学科共通科目、高度な専門性を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

学科共通科目と専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 学科共通科目

（1）キャリアデザイン力やビジネス社会で活躍できる力を身につける科目群

「キャリアスタディⅠ・Ⅱ」を通じて日本語活用能力及び数的処理能力を培い、就業への基礎学力を身に付けます。また、簿記等の専門基礎科目（ビジネス）により生涯にわたってビジネス社会等で活躍するための基礎的能力を育成します。

（2）学際的な知識・技能や ICT の活用能力を身につける科目群

他コースの専門教育科目、複数コース間の共通科目の履修を通じて、専門分野を越えた学際的な知識・技能を育成します。また、専門基礎科目（情報技術）を通じて ICT を活用して問題を発見し解決できる能力を育成します。

（3）他者と協働しながら地域社会の抱える問題の発見・解決に挑戦する科目群

「社会貢献の理論と実践」「地域貢献活動の実践」の科目で、地域社会へ向けた問題解決のための企画・提案や情報発信をグループで協力して行うことにより、企画・提案力、情報発信力、コミュニケーション力、他者と協働する力などを育成します。また、これらの力を身につけることで、社会で自立するためのコンピテンシー（仕事力）を育成します。

2. 専門教育科目

（4）専門分野における知識・技能を身につける科目群

各コースの専門教育科目（必修・選択）を通じて、専門分野における知識・技能を体系的に学修し、理論と実践を結びつけて課題解決を主導できる力を育成します。各コースにおける専門教育科目編成の方針は次のとおりです。

＜フードマネジメントコース＞学位：短期大学士（フード・健康教育）

食品や食品衛生に関する知識、基礎調理技術、健康と栄養、世界の食文化、製菓・製パンに関する知識を学んだ上で、世界文化遺産「和食」や各種の調理技術、フランス菓子製作に関する科目を体系的に配置します。食を総合的にプロデュースでき、食品・製菓業界で活躍できる人材を育成する教育課程を編成します。

＜図書館司書・ITコース＞学位：短期大学士（教養・情報）

日本語による表現技法、日本の文化・文学に関する科目をベースとして配置し、図書館司書及び IT のいずれにも有用な日本語の表現技能と教養を育成します。また、図書館司書資格取得に必要な科目を体系的に配置し、図書に関する情報を分析・処理する知識と技能を身につけ、的確な情報発信を行う力のある人材を育成する教育課程を編成します。

さらに、ICT に関する知識や技能、情報の構成、大量のデータから情報を抽出する技能な

どを学ぶ科目を体系的に配置し、企業社会で活躍できる人材を育成する教育課程を編成します。

＜国際観光・ホテルコース＞学位：短期大学士（生活デザイン）

観光・ホテルに関する知識・技能、旅行業務について理解を図る科目、英語でコミュニケーションの取れる会話科目を体系的に配置し、国際的に活躍できる人材を育成する教育課程を編成します。

＜ファッション・造形デザインコース＞学位：短期大学士（ファッション・デザイン）

ファッションの造形やコーディネート、アパレル設計等に関する知識と技能及び衣料管理士取得のための科目を体系的に配置し、ファッションデザイン業界で活躍できる人材を育成する教育課程を編成します。

また、デザインに関する基礎的な表現技術、コンピューター上での表現技法などを学ぶ科目を体系的に配置し、平面・立体・空間をデザインする能力を育成する教育課程を編成します。

【教育課程実施の方針】

総合文化学科では、学修成果を効果的に達成するために、「授業計画（シラバス）」及び「教育課程」に以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学修課程を展開しています。

1. 授業方法として、学生自らが作品制作・発表などを行う能動的学習手法（アクティブ・ラーニング）を幅広く導入し、深い学びを促進しています。
2. 地域貢献に関わる授業では、グループワーク、PBL（課題解決型授業）、サービスラーニングを実施するなど、多様な授業手法を導入し、学習効果をより高めています。
3. 一年次秋学期からでもコースの変更ができる柔軟な履修体制を展開しています。

入学受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

総合文化学科では、ディプロマ・ポリシーの【学修成果】で示した目的を理解し、達成できる資質をもった人として、次のような入学者を求めています。

1. 二年間の学修を継続するための基礎知識をそなえ、情報機器の基本的操作技能を学んでいる人。
2. 文章を読解し表現する日本語運用力、数的処理を含む論理的思考力が認められる人。
3. ボランティア活動、サークル活動などの経験を通じて地域貢献への関心をもつ人。
4. クラブ活動等に主体的に参加し、他者と協働するコミュニケーション能力を備えた人。

総合文化学科ではこのような人を受け入れるために、多様な受験機会を用意し入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学修に必要なコミュニケーション力、基礎的な学力、論理的な思考力、協調性、主体性などについて、書類審査（調査書、推薦書など）、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に、かつ多面的に評価します。